

建築防水工事 材料ガイドブック GUIDE BOOK



掲載製品変更のお知らせ

改質アスファルトシート防水に使用する材料の改廃を行いました。
対象は以下の2製品です。

	従来品	新製品
品名	ポリマリットキャップ	ポリマリットフェース
規格	1m×8m 厚さ:4.0mm	同左
JIS	JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出単層防水用R種	同左
表層	スレート砂仕上げ	砕石砂仕上げ

	従来品	新製品
品名	ポリマリットST	ポリマリットPS
規格	1m×8m 厚さ:2.3mm※	1m× <u>16m</u> 厚さ: <u>1.5mm</u> ※
JIS	JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種	同左
表層	フィルム	<u>珪砂+塗料</u>

※厚さには粘着層を含まない

【仕様】

対象製品は次の仕様に採用されていますので、それぞれ置き換えてご覧ください。

令和4年版 公共建築工事標準仕様書
令和4年版 公共建築改修工事標準仕様書

2022日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS 8

改質アスファルトシート防水(トーチ工法)

- ・10ページ AS-T1、AS-T2
- ・11ページ AS-T3、AS-T4
- ・12ページ ASI-T1

改質アスファルトシート トーチ防水工法

- ・23ページ AT-MF
- ・24ページ AT-MT

【材料紹介】

39ページの掲載内容は以下に変更となりますので、それぞれ置き換えてご覧ください。

ポリマリットキャップ(従来品)



ポリマリットフェース(新製品)



表面に碎石砂を圧着した露出防水用キャップシート。

1m×8m 4.0mm厚
JIS A 6013

ポリマリットST(従来品)



ポリマリットPS(新製品)



裏面に粘着層をストライプ状に配した絶縁通気用改質アスファルトシート。

1m×16m 1.5mm厚(粘着層を含まない)
JIS A 6013

建築防水工事 材料ガイドブック

「建築防水工事 材料ガイドブック」では、
材料・工法の中から、
「公共建築工事標準仕様書（新築／改修）」と
「日本建築学会 建築工事標準仕様書（JASS8）」
にそった防水材料を紹介しています。

建築防水工事において大切なことは、
適切な材料・工法を選定することにあります。
それにより防水層に対し適切な設計がされ、
その性能が最大限に引き出されることで、
建築物の長寿命化にもつながります。

総合防水材メーカーならではの
適材適所の防水に対応している、
「建築防水工事 材料ガイドブック」を
ぜひ、ご活用ください。

改修工法名称について

① 分類

○ ○ ○ 工法

- 新規防水工法の種別による区分
- 既存の保護層および防水層の撤去・非撤去による区分
- 既存防水工法による区分

② 既存防水工法による区分

- P—保護アスファルト・改質アスファルト防水工法(断熱工法を含む)
- M—露出アスファルト・改質アスファルト防水工法(断熱工法を含む)
- S—合成高分子系ルーフィングシート防水工法(断熱工法を含む)
- L—ウレタンゴム系塗膜防水工法

③ 既存の保護層および防水層の撤去・非撤去による区分

- 1—保護層および防水層撤去
- 2—保護層撤去および防水層非撤去(立上り部等は撤去)
- 3—露出防水層撤去
- 4—露出防水層非撤去(立上り部等は表 3.1.1 による)
- 0—保護層および防水層非撤去(立上り部等は表 3.1.1 による)

④ 新規防水工法の種別による区分

- A—屋根保護防水密着工法
- B—屋根保護防水絶縁工法
- AI—屋根保護防水密着断熱工法
- BI—屋根保護防水絶縁断熱工法
- C—屋根露出防水密着工法
- D—屋根露出防水絶縁工法
- DI—屋根露出防水絶縁断熱工法
- AS—改質アスファルトシート防水工法
- ASI—改質アスファルトシート防水絶縁断熱工法
- S—合成高分子系ルーフィングシート防水工法
- SI—合成高分子系ルーフィングシート防水断熱工法
- X—ウレタンゴム系塗膜防水工法
- E—屋内防水密着工法
- Y—ゴムアスファルト系塗膜防水工法

【ご注意】

- 本ガイドブックには田島ルーフィングで扱っていない工法・仕様・材料は掲載されていませんので、ご了承ください。
- 仕様表は特記なき場合に適用されるもので、特記がある場合はそちらが優先されます。事前にご確認ください。

Contents

令和4年版 公共建築工事標準仕様書 令和4年版 公共建築改修工事標準仕様書

アスファルト防水

A-1/A-2/A-3	2
屋根保護防水密着工法	
AI-1/AI-2/AI-3	3
屋根保護防水密着断熱工法	
B-1/B-2	4
屋根保護防水絶縁工法	
BI-1/BI-2	5
屋根保護防水絶縁断熱工法	
C-1/C-2/C-3/C-4	6
屋根露出防水密着工法	
D-1/D-2	7
屋根露出防水絶縁工法	
DI-1/DI-2	8
屋根露出防水絶縁断熱工法	
E-1/E-2	9
屋内防水密着工法	

改質アスファルトシート防水

AS-T1/AS-T2/AS-J2	10
屋根露出防水密着工法	
AS-T3/AS-T4/AS-J1/AS-J3	11
屋根露出防水絶縁工法	
ASI-T1/ASI-J1	12
屋根露出防水絶縁断熱工法	

合成高分子系ルーフィングシート防水

S-F1/S-F2/S-M2	13
合成高分子系ルーフィングシート防水工法	
SI-F1/SI-F2/SI-M2	14
合成高分子系ルーフィングシート防水工法(断熱工法)	

塗膜防水

X-1/X-2	15
ウレタンゴム系塗膜防水工法(高伸長形)	
X-1H/X-2H	16
ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法	
Y-1/Y-2	17
ゴムアスファルト系塗膜防水工法	

アスファルト防水

AC-PF・AM-PF	18
アスファルト防水工法・密着保護仕様	
AM-PS	19
アスファルト防水工法・絶縁保護仕様	
AM-MS	20
アスファルト防水工法・絶縁露出仕様	
AM-MT	21
アスファルト防水工法・断熱露出仕様	
AC-IF	22
アスファルト防水工法・室内密着仕様	

改質アスファルトシート張付け防水
(トーチ工法・常温粘着工法)

AT-PF1	23
改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様	
AT-PF2	23
改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様(地下外壁)	
AT-MF	23
改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着露出仕様	
AT-MT	24
改質アスファルトシート トーチ防水工法・断熱露出仕様	
AS-PF	24
改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・密着保護仕様	
AS-MS	25
改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・絶縁露出仕様	
AS-MT	25
改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・断熱露出仕様	

合成高分子系シート張付け防水

S-RF	26
加硫ゴム系シート防水工法・接着仕様	
S-RFT	26
加硫ゴム系シート防水工法・断熱接着仕様	
S-PF	27
塩化ビニル樹脂系シート防水工法・接着仕様	
S-PFT	27
塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱接着仕様	

合成高分子系シート固定防水

S-PM	28
塩化ビニル樹脂系シート防水工法・機械的固定仕様	
S-PMT	28
塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱機械的固定仕様	

塗膜防水

L-UFS	29
ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様	
L-UFH	29
ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着仕様	
L-USS	30
ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・絶縁仕様	
L-USH	30
ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁仕様	
L-AW	31
アクリルゴム系塗膜防水工法・外壁仕様	
L-GI	32
ゴムアスファルト系塗膜防水工法・室内仕様	
L-GU	32
ゴムアスファルト系塗膜防水工法・地下外壁仕様	

セメント系防水

C-PF・C-PU	33
ポリマーセメント系塗膜防水工法	

材料紹介

アスファルト防水	34
改質アスファルトシート防水	39
合成高分子系ルーフィングシート防水	42
塗膜防水	46
各種副資材	50

アスファルト防水

●対応製品についての詳細は → 34 ページ

屋根保護防水密着工法の種別および工程

A-1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
9	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

A-2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
8	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

A-3

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 アスファルト流し張り	1.0	GT5000 アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
7	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

(注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
 2. 立上り部は、絶縁用シートを省略する。
 3. 立上り部における保護工法は、特記による。
 4. 保護コンクリートには、溶接金網を敷き込む。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほか、ハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

●対応製品についての詳細は → 34ページ
●断熱材厚さについての詳細は → 8ページ

屋根保護防水密着断熱工法の種別および工程

AI-1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	断熱材 (注)2	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
9	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000	—
10	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

AI-2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	断熱材 (注)2	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
8	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000	—
9	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

AI-3

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 アスファルト流し張り	1.0	GT5000 アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	断熱材 (注)2	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
7	絶縁用シート (注)2	—	絶縁クロス1000	—
8	保護コンクリート (注)3 (注)4	—	—	—

(注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
2. 立上り部への断熱材および絶縁用シートの設置は、特記による。
3. 立上り部における保護工法は、特記による。
4. 保護コンクリートには、溶接金網を敷き込む。

〈対応製品について〉

・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほか、ハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

アスファルト防水

屋根保護防水絶縁工法の種別および工程

●対応製品についての詳細は → 34ページ

B-1 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)1	—	ストライプルーフィング (立上り: GT5000 (アスタイトM張付け1.0kg/m ²))	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000または 絶縁シート	—
8	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

B-1 砂付あなあきルーフィングを用いる場合

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)2	—	フリースポット	—
3	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)3	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
5	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
9	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000または 絶縁シート	—
10	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

B-2 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)1	—	ストライプルーフィング (立上り: GT5000 (アスタイトM張付け1.0kg/m ²))	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000または 絶縁シート	—
7	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

B-2 砂付あなあきルーフィングを用いる場合

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)2	—	フリースポット	—
3	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)3	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
5	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000または 絶縁シート	—
9	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

- (注) 1. 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合の立上り部は、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付けの代わりに、改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上の張付け (使用量 1.0kg/m²) とする。
2. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、砂付あなあきルーフィングを省略する。
3. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、工程3のアスファルトの使用量を () 内とする。
4. 立上り部は、絶縁用シートを省略する。
5. 立上り部における保護工法は、特記による。
6. 保護コンクリートには、溶接金網を敷き込む。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほか、ハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイトイトJなどがあります。

●対応製品についての詳細は → 34ページ
●断熱材厚さについての詳細は → 8ページ

屋根保護防水絶縁断熱工法の種別および工程

BI-1 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)1	—	ストライプルーフィング (立上り:GT5000 (アスタイトM張付け1.0kg/m ²))	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	断熱材 (注)4	—	RBボードまたはスタイロフォームRB-GK-II	—
8	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000	—
9	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

BI-1 砂付あなあきルーフィングを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)2	—	フリースポット	—
3	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)3	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
5	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
9	断熱材 (注)4	—	RBボードまたはスタイロフォームRB-GK-II	—
10	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000	—
11	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

BI-2 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)1	—	ストライプルーフィング (立上り:GT5000 (アスタイトM張付け1.0kg/m ²))	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
6	断熱材 (注)4	—	RBボードまたはスタイロフォームRB-GK-II	—
7	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000	—
8	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

BI-2 砂付あなあきルーフィングを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)2	—	フリースポット	—
3	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)3	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
5	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
8	断熱材 (注)4	—	RBボードまたはスタイロフォームRB-GK-II	—
9	絶縁用シート (注)4	—	絶縁クロス1000	—
10	保護コンクリート (注)5 (注)6	—	—	—

- (注) 1. 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合の立上り部は、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付けの代わりに、改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上の張付け (使用量 1.0kg/m²) とする。
2. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、砂付あなあきルーフィングを省略する。
3. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、工程3のアスファルトの使用量を () 内とする。
4. 立上り部への断熱材および絶縁用シートの設置は、特記による。
5. 立上り部における保護工法は、特記による。
6. 保護コンクリートには、溶接金網を敷き込む。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

アスファルト防水

屋根露出防水密着工法の種別および工程

C-1

改修仕様のみ

改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
5	砂付ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	強力砂付 アスタイトM流し張り	1.0
6	仕上塗料塗り(注)2	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

C-2

改修仕様のみ

改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
3	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
4	砂付ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	強力砂付 アスタイトM流し張り	1.0
5	仕上塗料塗り(注)2	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

C-3

改修仕様のみ

改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 アスファルト流し張り	1.0	GT5000 アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	砂付ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	強力砂付 アスタイトM流し張り	1.0
5	仕上塗料塗り(注)2	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

C-4

改修仕様のみ

改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 アスファルト流し張り	1.0	GT5000 アスタイトM流し張り	1.0
3	砂付ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	強力砂付 アスタイトM流し張り	1.0
4	仕上塗料塗り(注)2	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

(注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)

2. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による。

〈対応製品について〉

* SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合があります。使用量は塗料の種類により異なります。

・ アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合があります。

・ アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほか、ハイコートM、環境対応型のグリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

●対応製品についての詳細は → 34ページ

屋根露出防水絶縁工法の種別および工程

D-1 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)2	—	ストライプルーフィング (立上り:GT5000) (アスタイトM張付け1.0kg/m ²)	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
4	砂付ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	強力砂付アスタイトM流し張り	1.0
5	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

D-1 砂付あなあきルーフィングを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)3	—	フリースポット	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)4	ハイスターアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	ハイスターアスタイトM流し張り	1.0
5	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
6	砂付ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	強力砂付アスタイトM流し張り	1.0
7	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

D-2 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)2	—	ストライプルーフィング (立上り:GT5000) (アスタイトM張付け1.0kg/m ²)	—
3	砂付ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	強力砂付アスタイトM流し張り	1.0
4	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

D-2 砂付あなあきルーフィングを用いる場合 新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	砂付あなあきルーフィング (注)3	—	フリースポット	—
3	ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.2 (1.0) (注)4	ハイスターアスタイトM流し張り	1.2 (1.0)
4	アスファルトルーフィングアスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィングアスタイトM流し張り	1.0
5	砂付ストレッチルーフィングアスファルト流し張り	1.0	強力砂付アスタイトM流し張り	1.0
6	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

- (注) 1. POD工法の場合で、アスファルトプライマーの吸い込みが著しく、工程1の使用量で不足する場合は、監督職員と協議する。(改修仕様のみ)
2. 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合の立上り部は、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付けの代わりに、改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上の張付け (使用量 1.0kg/m²) とする。
3. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、砂付あなあきルーフィングを省略する。
4. 砂付あなあきルーフィングを用いる場合の立上り部は、工程3のアスファルトの使用量を () 内とする。
5. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による。

〈対応製品について〉

- ※ SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合もあります。使用量は塗料の種類により異なります。
- アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
 - アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。
 - 脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーを使用する (70~80㎡あたり1カ所)。

アスファルト防水

屋根露出防水絶縁断熱工法の種別および工程

●対応製品についての詳細は →34 ページ

●断熱材厚さについての詳細は →8 ページ

DI-1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2 (注)1 (注)3	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3 (注)3	断熱材張付け	1.0	ギルフォーム アスタイトM張付け	1.0
4	部分粘着層付 改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)4	—	ストライプルーフィング (立上り: GT5000 アスタイトM張付け1.0kg/m ²)	—
5	改質アスファルトルーフィングシート (露出複層防水用R種) 2.0mm以上 アスファルト流し張り	1.2	砂付ガムトップ または ガムトップ25 アスタイトM流し張り	1.2
6	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

DI-2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2 (注)1 (注)3	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3 (注)3	断熱材張付け	1.0	ギルフォーム アスタイトM張付け	1.0
4	部分粘着層付 改質アスファルトルーフィングシート張付け (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上 (注)4	—	ストライプルーフィング (立上り: GT5000 アスタイトM張付け1.0kg/m ²)	—
5	砂付ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.2	強力砂付 アスタイトM流し張り	1.2
6	仕上塗料塗り (注)5	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

- (注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1および工程2を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
2. PODI工法の場合で、アスファルトプライマーの吸い込みが著しく、工程1の使用量が不足する場合は、監督職員と協議する。(改修仕様のみ)
3. 立上り部は、工程2および工程3を省略する。
4. 立上り部は、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート張付けの代わりに、改質アスファルトルーフィングシート (非露出複層防水用R種) 1.5mm以上の張付け (使用量1.0kg/m²)とする。
5. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による。

(対応製品について)

- ※ SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合があります。使用量は塗料の種類により異なります。
- アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合があります。
- アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイトイトJなどがあります。
- 脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーパラスを使用する(70~80m²あたり1カ所)。

〈住宅の省エネルギーに基づく断熱材の厚さ(鉄筋コンクリート造建物)〉

都道府県名 ※1	建築物省エネ基準		国土交通省告示784号2019年(令和元年)		
	地域区分	断熱材の熱抵抗値 【屋根】 m ² ・K/W	断熱材の厚さ		
			断熱材種類E ※2	RBボード スタイロフォーム ※3	ギルフォーム ※3
北海道	1・2	3.0	85	85	70
青森県・岩手県・秋田県	3	2.2	65	65	60
宮城県・山形県・福島県・新潟県・長野県・栃木県	4	2.0	60	60	50
茨城県・群馬県・山梨県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・滋賀県・埼玉県 千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・愛知県・三重県・京都府・大阪府 兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県 徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県	5・6	2.0	60	60	50
宮崎県・鹿児島県	7	2.0	60	60	50
沖縄県	8	0.57	15	25	25

※1. 市町村によっては他の地域に区分されることがあります。詳しくは国土交通省告示第783号(令和元年)の別表第10をご覧ください。

※2. (財)住宅建築省エネルギー機構「住宅の次世代省エネルギー基準と指針」で区分されている断熱材の種類(押出法ポリスチレンフォーム3種)での厚み。

※3. RBボード、スタイロフォーム、ギルフォームの熱抵抗値から計算した厚み。

(注意事項)省エネ基準の適合判定以外に適用することはできません。

●対応製品についての詳細は → 34ページ

屋内防水密着工法の種別および工程

E-1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り (注)2	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
5	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
6	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
7	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0

- (注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
 2. 工程3を行う場合は、特記による。特記がなければ、貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位に適用する。

E-2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー塗り	0.2
2	アスファルトルーフィング アスファルト流し張り	1.0	アスファルトルーフィング アスタイトM流し張り	1.0
3	ストレッチルーフィング アスファルト流し張り	1.0	ハイスター アスタイトM流し張り	1.0
4	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0
5	アスファルトはけ塗り	1.0	アスタイトMはけ塗り	1.0

- (注) 1. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合があります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかにハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

改質アスファルトシート防水

●対応製品についての詳細は → 39 ページ

屋根露出防水密着工法の種別および工程

AS-T1 (トーチ工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)2	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、2.5mm以上)	—	ポリマリット25	—
3	改質アスファルトシート (露出複層防水用R種、3.0mm以上)	—	ポリマリットキャップ または ポリマリット35	—
4	仕上塗料塗り (注)3	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

AS-T2 (トーチ工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)2	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	改質アスファルトシート (露出単層防水用R種、4.0mm以上)	—	ポリマリットキャップ または ポリマリット40	—
3	仕上塗料塗り (注)3	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

AS-J2 (常温粘着工法)

改修仕様のみ 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)2	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	粘着層付改質アスファルトシート (露出単層防水用R種、3.0mm以上)	—	ガムワールキャップEX	—
3	仕上塗料塗り (注)3	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

- (注) 1. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 2. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
 3. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、改質アスファルトシートの製造所の仕様による。

〈対応製品について〉

- ※ SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合があります。使用量は塗料の種類により異なります。
- ・ アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合があります。

●対応製品についての詳細は → 39ページ

屋根露出防水絶縁工法の種別および工程

AS-T3(トーチ工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)2	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、1.5mm以上) (注)5	—	ポリマリットST (立上り: ポリマリット25)	—
3	改質アスファルトシート (露出複層防水用R種、3.0mm以上)	—	ポリマリットキャップ または ポリマリット35	—
4	仕上塗料塗り (注)9	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

AS-T4(トーチ工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)2	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	あなあきシート (注)6	—	PMスポット32	—
3	改質アスファルトシート (露出単層防水用R種、4.0mm以上)	—	ポリマリットキャップ または ポリマリット40	—
4	仕上塗料塗り (注)9	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

AS-J1(常温粘着工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)2	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、1.5mm以上) (注)7	—	ガムグールFSII (立上り: ガムグールFX)	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用R種、2.0mm以上)	—	ガムグールキャップ	—
4	仕上塗料塗り (注)9	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

AS-J3(常温粘着工法)

改修仕様のみ 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)2	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	部分接着用シート (注)8	—	ガムグールFS	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (露出単層防水用R種、3.0mm以上) (注)4	—	ガムグールキャップEX	—
4	仕上塗料塗り (注)9	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

- (注) 1. AS-J3は、POAS工法の場合のみとする。(改修仕様)
 2. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 3. POAS工法の場合で、プライマーの吸い込みが著しく、工程1の使用量で不足する場合は、監督職員と協議する。(改修仕様のみ)
 4. AS-J3の工程3を部分粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種、3.0mm以上)とする場合は工程2を省略し、立上り部は粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種、3.0mm以上)とする。(改修仕様のみ)
 5. AS-T3の立上り部は、工程2を改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種、2.5mm以上)とする。
 6. AS-T4の立上り部は、あなあきシートを省略する。
 7. AS-J1の立上り部は、工程2を粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種、1.5mm以上)とする。
 8. AS-J3の立上り部は、部分接着用シートを省略する。(改修仕様のみ)

9. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、改質アスファルトシート製造所の仕様による。

【対応製品について】

- * SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合があります。使用量は塗料の種類により異なります。
 ・ アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合があります。
 ・ 脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパー類を使用する(70~80㎡あたり1ヶ所)。

改質アスファルトシート防水

屋根露出防水絶縁断熱工法の種別および工程

- 対応製品についての詳細は → 39 ページ
- 断熱材厚さについての詳細は → 8 ページ

ASI-T1 (トーチ工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)2	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	断熱材張付け (注)3	—	ギルフォーム レイコーセメント (点張り)	— 0.8
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、1.5mm以上) (注)4	—	ポリマリットST (立上り: ポリマリット25)	—
4	改質アスファルトシート (露出複層防水用R種、3.0mm以上)	—	ポリマリットキャップ または ポリマリット35	—
5	仕上塗料塗り (注)6	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

ASI-J1 (常温粘着工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)2	プライマー塗り	0.2 (0.4) (注)1	アスファルトプライマー塗り	0.2 (0.4)
2	断熱材張付け (注)3	—	ギルフォーム レイコーセメント (点張り)	— 0.8
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、1.5mm以上) (注)5	—	ガムクールFSII (立上り: ガムクールFX)	—
4	粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用R種、2.0mm以上)	—	ガムクールキャップ	—
5	仕上塗料塗り (注)6	—	SPファインカラー塗り*	0.4 ~0.6

- (注) 1. ALC パネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 2. 下地が既存防水層の場合は、工程1を省略し、アスファルト系下地調整材を1.0kg/m²程度塗布する。(改修仕様書3.2.6より)
 3. 防湿用シートの設置は、特記による。
 4. ASI-T1の立上り部は、工程3を改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、2.5mm以上) とする。
 5. ASI-J1の立上り部は、工程3を粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種、1.5mm以上) とする。
 6. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、改質アスファルトシート製造所の仕様による。

〈対応製品について〉

- ※ SPファインカラーに代えて、SPミッドカラー、SPサーモコート、SPスーパーサーモコート、SPマルチカラー、SPクリーンカラーを使用する場合もあります。使用量は塗料の種類により異なります。
- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければステンレスペーパー類を使用する(70~80㎡あたり1ヶ所)。

合成高分子系ルーフィングシート防水

合成高分子系ルーフィングシート防水工法の種別および工程

●対応製品についての詳細は
→42ページ

接着工法 S-F1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)3	プライマー塗り	0.2 (0.3) (注)2	プラストプライマー	0.2 (0.3)
2	接着剤塗布	0.4 (注)4	プラストボンド(下地 0.25/シート 0.15)	0.4
3	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.2mm)張付け	—	プラストシートB1.2	—
4	仕上塗料塗り(注)6	—	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3

接着工法 S-F2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1 (注)3	— (プライマー塗り)	— (0.3) (注)2	—	—
2	接着剤塗布	0.4	VTボンド(下地 0.2/シート 0.2)	0.4
3	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)張付け(注)5	—	ビュートップU15*	—

機械的固定工法 S-M2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	(絶縁用シート敷設)(注)7	—	(Uマット200)	—
2	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)の 固定金具による固定(注)5	—	ビュートップU15* UPプレート・UPディスク	—

- (注) 1. ALCパネル下地の場合は、機械的固定工法は適用しない。(改修仕様のみ)
 2. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 3. S4S工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。(改修仕様のみ)
 4. S-F1で粘着層付または接着剤付加硫ゴム系ルーフィングシートを使用する場合は、工程2の接着剤の使用量は製造所の仕様による。
 5. S-F2およびS-M2で特記により軽歩行仕様とする場合は、ルーフィングシートの厚みは2.0mmとする。
 6. S-F1の場合、仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、非歩行仕様とし、使用量はルーフィングシートの製造所の仕様による。
 7. S-M2の絶縁用シート敷設は改修仕様のみ。

〈対応製品について〉
 ※ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。
 ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパー類を使用する(70~80㎡あたり1カ所)。

改修 表3.5.1 改修 表3.5.2

【種別および工程について】

- (1) POS工法、POSI工法、S4S工法およびS4SI工法は、次による。
 (ア) 新規防水層の種別および工程は表3.5.1および表3.5.2とし、種別は特記による。
 ただし、S4S工法およびS4SI工法で既存防水層を撤去せず新規防水層に塩化ビニル樹脂系ルーフィングシートを用いる場合は、原則として、機械的固定工法とする。
 (イ) 接着工法の場合、脱気装置の種類および設置数量は、特記による。特記がなければ、ルーフィングシートの製造所の仕様による。
 (2) S3SおよびS3SI工法は、次による。
 (ア) 新規防水層の種別および工程は表3.5.1のS-F1およびS-F2並びに表3.5.2のSI-F1およびSI-F2により、種別は特記による。
 (イ) 脱気装置の種類および設置数量は、特記による。特記がなければ、ルーフィングシートの製造所の指定による。
 (3) M4SおよびM4SI工法は、次による。
 新規防水層の種別および工程は表3.5.1のS-M1およびS-M2並びに表3.5.2のSI-M1およびSI-M2により、種別は特記による。

合成高分子系ルーフィングシート防水

合成高分子系ルーフィングシート防水工法(断熱工法)の種別および工程

- 対応製品についての詳細は
→42ページ
- 断熱材厚さについての詳細は
→8ページ

接着工法 SI-F1

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリエチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1 (注)3	プライマー塗り	0.2 (0.3) (注)2	—	—	プラストプライマー	0.2 (0.3)
2	接着剤/断熱材	— (注)5	VTエース GIボードW	0.45 —	プラストボンド(下地 0.25/断熱材 0.15) フォームエース	0.4 —
3	接着剤塗布	0.4 (注)8	プラストボンド(断熱材 0.25/シート 0.15)	0.4	プラストボンド(断熱材 0.15/シート 0.15)	0.3
4	加硫ゴム系ルーフィングシート (1.2mm)張付け	—	プラストシートB1.2	—	プラストシートB1.2	—
5	仕上塗料塗り(注)9	—	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3

接着工法 SI-F2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリエチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1 (注)3	— (プライマー塗り)	— (0.3) (注)2	—	—	— (ポリマーセメントモルタルによる下地処理)	—
2	接着剤/断熱材	— (注)5	VTエース GIボードW	0.45 —	プラストプライマー プラストボンド(下地 0.25/断熱材 0.15) フォームエース	0.2 0.4 —
3	接着剤塗布	0.4	VTボンド	0.4	プラストボンド(断熱材側) VTボンド	0.15 0.25
4	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート (1.5mm)張付け	—	ビュートップU15*	—	ビュートップU15* UPプレート UPディスク	—

機械的固定工法 SI-M2

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリスチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1	断熱材(注)4	—	VTボード	—	スタイロエースII	—
2	可塑性移行防止用シート敷設(注)7	—	—	—	PSマット	—
3	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート (1.5mm)の固定金具による固定	—	ビュートップU15* UPプレート UPディスク	—	ビュートップU15* UPプレート UPディスク	—

- (注) 1. ALCパネル下地の場合は、機械的固定工法は適用しない。(改修仕様のみ)
 2. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 3. S4SI工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。(改修仕様のみ)
 4. SI-M2の場合、防湿用のフィルムの設置は、特記による。
 5. 工程2の断熱材張付けに用いる接着剤の使用量は、ルーフィングシートの製造所の仕様による。
 6. 断熱材は、立上り際でルーフィングシートの製造所の仕様により固定する。
 7. SI-M2の場合で、断熱材が硬質ウレタンフォーム断熱材を用いる場合は、工程2を行わない。

8. SI-F1の場合で粘着層付または接着剤付加硫ゴムルーフィングシートを使用する場合、工程3の接着剤の使用量は、製造所の仕様による。
 9. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量はルーフィングシートの製造所の仕様による。

【対応製品について】

- * ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。
 ・ 脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーを使用する(70~80㎡あたり1カ所)。

【種別および工程について】

- (1) POS工法、POSI工法、S4S工法およびS4SI工法は、次による。
 (ア) 新規防水層の種別および工程は表3.5.1および表3.5.2とし、種別は特記による。
 ただし、S4S工法およびS4SI工法で既存防水層を撤去せず新規防水層に塩化ビニル樹脂系ルーフィングシートを用いる場合は、原則として、機械的固定工法とする。
 (イ) 接着工法の場合、脱気装置の種類および設置数量は、特記による。特記がなければ、ルーフィングシートの製造所の仕様による。
 (2) S3SおよびS3SI工法は、次による。
 (ア) 新規防水層の種別および工程は表3.5.1のS-F1およびS-F2並びに表3.5.2のSI-F1およびSI-F2により、種別は特記による。
 (イ) 脱気装置の種類および設置数量は、特記による。特記がなければ、ルーフィングシートの製造所の指定による。
 (3) M4SおよびM4SI工法は、次による。
 新規防水層の種別および工程は表3.5.1のS-M1およびS-M2並びに表3.5.2のSI-M1およびSI-M2により、種別は特記による。

塗膜防水

●対応製品についての詳細は → 46ページ

ウレタンゴム系塗膜防水工法(高伸長形)の種別および工程

X-1(絶縁工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り(注)1	0.3	OTプライマー類 オルタックシートGS	0.2
2	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り	3.0 (注)4 (注)5	オルタックエース	1.8
3	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り		オルタックエース	1.8
4	仕上塗料塗り(注)6	—	OTコート類	0.2

X-2(密着工法)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー類	0.2
2	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り 補強布張り	0.3	オルタックエース メッシュUB	0.4
3	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り	2.7 (注)4 (注)5	オルタックエース	1.8
4	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り		オルタックエース	1.4
5	仕上塗料塗り(注)6	—	OTコート類	0.2

立上り(X-1・X-2 共通)

新築 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー類	0.2
2	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り 補強布張り	0.3	立上り用オルタックエース メッシュUB	0.4
3	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り	1.7 (注)4 (注)5	立上り用オルタックエース	1.2
4	ウレタンゴム系(高伸長形) 塗膜防水材塗り		立上り用オルタックエース	1.0
5	仕上塗料塗り(注)6	—	OTコート類	0.2

- (注) 1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
 2. L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。(改修仕様のみ)
 3. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 4. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りは、2回以上に分割して塗り付ける。
 5. ウレタンゴム系塗膜防水材の塗りの1工程当たりの使用量は、平場は2.5kg/m²、立上りは1.5kg/m²を上限とする。
 6. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。

〈対応製品について〉

- ・ X-1(絶縁工法)において、脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーバス類を使用する(70~80㎡あたり1カ所)。

● ウレタンゴム系塗膜防水材 硬化物比重

オルタックエース	1.2
立上り用オルタックエース	1.3
オルタックエースUC	1.3
オルタックサンキュアR	1.2
オルタックサンキュアT	1.3
オルタックサンキュア500	1.3
GO-JIN T	1.3
GO-JIN 500	1.3

塗膜防水

●対応製品についての詳細は → 46 ページ

ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法の種別および工程

X-1H(絶縁工法)

改修仕様のみ 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り(注)1	0.3	OTプライマーQQ オルタックスシートGS	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形 塗膜防水材吹付け(注)4	3.0 (注)3	オルタックスプレーFF	3.0
3	仕上塗料塗り(注)5	—	OTコートQQ	0.2

X-2H(密着工法)

改修仕様のみ 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマーQQ	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形 塗膜防水材吹付け(注)4	3.0 (注)3	オルタックスプレーFF	3.0
3	仕上塗料塗り(注)5	—	OTコートQQ	0.2

立上り(X-1H・X-2H 共通)

改修仕様のみ 改修

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマーQQ	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形 塗膜防水材吹付け(注)4	2.0 (注)3	オルタックスプレーFF	2.0
3	仕上塗料塗り(注)5	—	OTコートQQ	0.2

(注) 1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。

2. L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。

3. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

4. 吹付け作業が困難な部位の工法は、主材料の製造所の仕様による。

5. 仕上塗料の種類および使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。

《対応製品について》

- ・ X-1H(絶縁工法)において、脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパー類を使用する(70~80㎡あたり1ヵ所)。

●ウレタンゴム系塗膜防水材 硬化物比重

オルタックスプレーFF	1.0
-------------	-----

●対応製品についての詳細は →48ページ

ゴムアスファルト系塗膜防水工法の種別および工程

Y-1 (注)1

新築仕様のみ **新築**

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (立上り部)	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー吹付けまたは塗り	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2
2	ゴムアスファルト系塗膜防水材吹付けまたは塗り	7.0 (注)2	ビルコートS ※3	5.0	ビルコートS ※3 ※4	5.0
3	保護緩衝材 ※1	—	(別途保護 ※2)	—	GSプロテクター (GSプロテクターセメント)	0.2

Y-2 (注)1

新築 **改修**

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (立上り部)	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2
2	ゴムアスファルト系塗膜防水材塗り 補強布張り	4.5 (注)2	ビルコートS BCマットPC	2.0	ビルコートS ※4 BCマットPC	2.0
3	ゴムアスファルト系塗膜防水材塗り	(注)3	ビルコートS	1.3	ビルコートS ※4	1.3
4	絶縁用シート	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—	—	—
5	保護コンクリート または 保護モルタル (注)4	—	—	—	—	—

- (注) 1. Y-1については地下外壁防水、Y-2については屋内防水に適用する。
 2. 表中のゴムアスファルト系塗膜防水材の使用量は、固形分60% (質量) である材料の場合を示しており、固形分がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 3. 塗り回数は、主材料の製造所の仕様による。
 4. 工程5の保護層の仕様は、特記による。なお、保護モルタルとした場合は、工程4の絶縁シートを省略する。

〈対応製品について〉

- ※1. 地下外壁防水の保護に使用する保護緩衝材の材質は補強クロス付ポリエチレン発泡材とし、厚さ5mm以上のものとする。
- ※2. Y-1は外壁を想定した仕様のため、平面部では保護モルタルや保護コンクリートなどが一般的となる。
- ※3. Y-1においてビルコートSを2回、3回に分けて塗布することも可能です。(単位/m²)
 - 2回に分ける場合：工程①4.0kg ②1.0kg
または、工程①3.0kg ②2.0kg
 - 3回に分ける場合：工程①2.0kg ②2.0kg ③1.0kg
または、工程①3.0kg ②1.0kg ③1.0kg
 下層の硬化を確認した後に次の工程を行ってください。
- ※4. 立上り部にはビルコートSにビル増粘剤を添加し使用する。

●ゴムアスファルト系防水材 固形分

ビルコートS	84%
--------	-----

面材・不定形材積層防水工事

アスファルト防水

アスファルト防水工法・密着保護仕様

- 対応製品についての詳細は → 34 ページ
- 断熱材厚さについての詳細は → 8 ページ

AC-PF 平場(RC・PCa下地)／立上り(RC下地)

表 1.6.1

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルトルーフィング1500流張り	—	アスファルトルーフィング	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
3	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
4	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
5	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
6	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
仕上 1	断熱材の防水工事用アスファルトによる張付け	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
仕上 2	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000	—
—	コンクリート施工	—	—	—

* 立上りは工程6まで。

* 非断熱工法の場合は、仕上1を省略する。

* 立上りは絶縁用シート(断熱工法の場合は断熱材も)を省略する。

AM-PF 平場(RC・PCa下地)／立上り(RC下地)

表 1.6.2

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(非露出複層防水用)流張り	—	GT5000	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
3	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
4	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
5	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
仕上 1	断熱材の防水工事用アスファルトによる張付け	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
仕上 2	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000	—
—	コンクリート施工	—	—	—

* 立上りは工程5まで。

* 非断熱工法の場合は、仕上1を省略する。

* 立上りは絶縁用シート(断熱工法の場合は断熱材も)を省略する。

(注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。

2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部には、工程2に先立ちストレッチルーフィングを用いて絶縁増張り(張りかけ幅100mm程度)を行う。

3. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。

4. 立上り末端は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。室内のモルタル保護層の場合で立上り高さが低い場合は、押え金物に代えて網状ルーフィングで処理する。

5. 出隅・入隅および立上りの出隅・入隅には、工程2に先立ち幅300mm程度のストレッチルーフィングによる増張り(防水工事用アスファルト使用量は1.0kg/m²とする)を行う。ただし、立上りの保護層を乾式工法とする場合は、立上りの出隅・入隅の増張りを省略できる。

6. 断熱材の厚さは、特記による。

7. 張付けに使用する防水工事用アスファルトは、JIS K 2207:2006(石油アスファルト)の防水工事用3種とする。

8. 平場の現場打ちコンクリート上に植栽を施す場合は、保護層の施工に先立ち、耐根シートを敷設する。

9. 平場の保護層を砂利とする場合は、特記による。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。

●対応製品についての詳細は → 34ページ
 ●断熱材厚さについての詳細は → 8ページ

アスファルト防水工法・絶縁保護仕様

AM-PS 平場(RC・PCa下地)

表 1.6.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用)張付け	—	ストライプルーフィング	—
3	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
4	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
5	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0

・アスファルトコンクリート仕上げの場合

仕上 1	工程5施工時に アスファルトルーフィング1500流張り	—	アスファルトルーフィング	—
---------	--------------------------------	---	--------------	---

・現場打ちコンクリート仕上げ 断熱ありの場合

仕上 1	断熱材の防水工事用アスファルトによる張付け	—	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II	—
仕上 2	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000	—
—	コンクリート施工	—	—	—

* 非断熱工法の場合は、仕上1断熱材を省略する。
 * 立上りは仕上2絶縁用シート(断熱工法の場合は断熱材も)を省略する。

AM-PS 立上り(RC下地)

表 1.6.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用)張付け	—	GT5000	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
3	ストレッチルーフィング1000張付け	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
4	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
5	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. 立上りの工程2は、全面粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用)で代替できるものとする。
 3. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
 4. 立上り末端は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。
 5. 平場の保護層をコンクリート平板類またはアスファルトコンクリートとする場合において、立上りの仕上げ層を仕上げ塗料またはなしとする場合は、立上り防水の工程3を砂付ストレッチルーフィング800張付け(防水工事用アスファルトの使用量は1.2kg/m²とする)とし、工程4および工程5を省略する。
 6. 出隅・入隅および立上りの出隅・入隅には、工程2に先立ち幅300mm程度のストレッチルーフィングによる増張り(防水工事用アスファルトの使用量は1.0kg/m²とする)を行う。ただし、立上りの保護層を乾式工法とする場合は、立上りの出隅・入隅の増張りを省略できる。
 7. 仕上げ塗料の種類と塗布量は、特記による。
 8. 張付けに使用する防水工事用アスファルトは、JIS K 2207:2006(石油アスファルト)の防水工事用3種とする。
 9. 平場の現場打ちコンクリート上に植栽を施す場合は、保護層の施工に先立ち、耐根シートを敷設する。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマー-SS、水性プライマー-ASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかにハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。
- ・仕上げ塗料は、SPシリーズをお使いください。

面材・不定形材積層防水工事

アスファルト防水

●対応製品についての詳細は → 34 ページ

アスファルト防水工法・絶縁露出仕様

AM-MS 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.6.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用) 張付け	—	ストライプルーフィング	—
3	砂付ストレッチルーフィング800流張り	—	強力砂付	—
	防水工事用アスファルト	1.2	アスタイトM	1.2
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

AM-MS 立上り(RC下地)

表 1.6.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(非露出複層防水用) 張付け	—	GT5000	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
3	砂付ストレッチルーフィング800張付け	—	強力砂付	—
	防水工事用アスファルト	1.2	アスタイトM	1.2
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
2. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部およびALCパネル短辺接合部は、アスファルトプライマー乾燥後に幅50mm程度の絶縁テープを張り付ける。
3. ALCパネル下地の場合のアスファルトプライマーの使用量は、0.4kg/m²とする。
4. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
5. 立上り末端は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。
6. 出隅・入隅には、工程2に先立ち幅300mm程度のストレッチルーフィングによる増張り(防水工事用アスファルトの使用量は1.0kg/m²とする)を行う。
7. 脱気装置を設置する。その位置、種類および個数は、特記による。
8. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。
9. 張付けに使用する防水工事用アスファルトは、JIS K 2207:2006(石油アスファルト)の防水工事用3種とする。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のク린タイトJ、ハイトイトJなどがあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーパルを使用する(70~80㎡あたり1カ所)。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

●対応製品についての詳細は → 34 ページ
 ●断熱材厚さについての詳細は → 8 ページ

アスファルト防水工法・断熱露出仕様

AM-MT 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.6.5

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	断熱材 張付け	—	ギルフォーム	—
	防水工事用アスファルト	1.5	アスタイトM	1.5
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用) 張付け	—	ストライプルーフィング	—
4	改質アスファルトシート (露出複層防水用) 流張り	—	ガムトップ25※ または 砂付ガムトップ	—
	防水工事用アスファルト	1.2	アスタイトM	1.2
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

AM-MT 立上り(RC下地)

表 1.6.5

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用) 張付け	—	GT5000	—
	防水工事用アスファルト	1.2	アスタイトM	1.2
3	改質アスファルトシート (非露出複層防水用) 張付け	—	ガムトップ25※ または 砂付ガムトップ	—
	防水工事用アスファルト	1.2	アスタイトM	1.2
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
2. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部およびALCパネル短辺接合部は、アスファルトプライマー乾燥後に幅50mm程度の絶縁テープを張り付ける。
3. ALC パネル下地の場合のアスファルトプライマーの使用量は、0.4kg/m²とする。
4. 立上りの工程2は、全面粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用)で代替できるものとする。
5. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
6. 立上り末端は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。
7. 出隅・入隅には、工程3に先立ち、幅300mm程度の全面粘着層付改質アスファルトシートによる増張りを行う。
8. 張付けに使用する防水工事用アスファルトは、JIS K 2207:2006(石油アスファルト)の防水工事用3種とする。
9. 脱気装置を設置する。その位置、種類および個数は、特記による。
10. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。

11. 「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法を定める件」(平成28年国土交通省告示第265号)の地域区分新旧表に定められた地域1、地域2、地域3および地域4においては、工程2に先立ち防湿層を設置する。防湿層の種類は特記がない場合は、アスファルトルーフィング1500の流張り(防水工事用アスファルトの使用量は1.0kg/m²)とする。

〈対応製品について〉

- ※ ガムトップ25を使用する場合は仕上塗料が必須になります。
- アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
 - アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイトイトJなどがあります。
 - 脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーバス類を使用する(70~80㎡あたり1ヵ所)。
 - 仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

面材・不定形材積層防水工事

アスファルト防水

●対応製品についての詳細は → 34 ページ

アスファルト防水工法・室内密着仕様

AC-IF 平場(RC下地)／立上り(RC下地)

表 1.6.6

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
3	ストレッチルーフィング1000流張り	—	ハイスター	—
	防水工事用アスファルト	1.0	アスタイトM	1.0
4	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0
5	防水工事用アスファルト塗り	1.0	アスタイトM	1.0

・現場打ちコンクリート仕上げの場合

仕上 1	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
—	コンクリート施工	—	—	—

・アスファルトコンクリート仕上げの場合

仕上 1	工程5施工時にアスファルトルーフィングを流張り	—	アスファルトルーフィング	—
—	アスファルトコンクリートの転圧(振動締固めローラーによる) 2層に分け、厚さ50mm以上	—	—	—

* 立上りは工程5まで。

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
 3. 立上り末端は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。なお、室内で防水層の立上り高さが低い場合は、押え金物に代えて網状アスファルトルーフィングで処理する。
 4. 出隅・入隅には、工程2に先立ち幅300mm程度のストレッチルーフィングによる増張り(防水工事用アスファルトの使用量は1.0kg/m²とする)を行う。ただし、立上りの保護または仕上げを乾式工法、仕上塗料またはなしとする場合は、平場部と立上りの出隅・入隅の増張りを省略できる。

5. 張付けに使用する防水工事用アスファルトは、JIS K 2207:2006(石油アスファルト)の防水工事用3種とする。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・アスファルト防水熱工法に用いるアスファルトは、アスタイトMのほかハイコートM、環境対応型のクリンタイトJ、ハイタイトJなどがあります。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

面材張付け防水工事

改質アスファルトシート張付け防水(トーチ工法・常温粘着工法)

改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様

- 対応製品についての詳細は →39ページ
- 断熱材厚さについての詳細は →8ページ

AT-PF1平場(RC・PCa下地)／立上り(RC下地) 表1.3.6

工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	対応製品	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(非露出複層防水用、厚さ2.5mm以上)トーチ張り	—	ポリマリット25	—
3	改質アスファルトシート(非露出複層防水用、厚さ2.5mm以上)トーチ張り	—	ポリマリット25	—

* 立上りは工程3まで。

- (注) 1. 平場の保護層として現場打ちコンクリートまたはアスファルトコンクリートを用いる場合、その下地は現場打ち鉄筋コンクリート下地のみに適用する。
 2. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合はスラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
 3. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部には、工程2に先立ち、増張り用シートにより絶縁増張りを行う。
 4. 断熱材の種類および厚さは特記による。張付け方法は防水材製造所の指定による。
 5. 立上りの仕上げ層を仕上塗料またはなしとする場合は、特記による。その場合、平場の工程3の改質アスファルトシートは入隅で張り止めて、立上りの工程3の改質アスファルトシート(露出複層防水用)を平場に200mm張りかけて立上りに張り付ける。

・現場打ちコンクリート仕上げの場合

工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	対応製品	使用量(kg/m ²)
仕上1	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000または絶縁シート	—
—	コンクリート施工	—	—	—

・現場打ちコンクリート仕上げ 断熱ありの場合

仕上1	断熱材用接着剤による断熱材の張付け	—	RBボードまたはスタイロフォームRB-GK-II	—
仕上2	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000	—
—	コンクリート施工	—	—	—

6. 平場の保護層の上に植栽を施す場合は、保護層の現場打ちコンクリート施工に先立ち、耐根シートを敷設する。
 7. 保護層としてモルタルを用いる場合は室内のみとする。
 8. 保護層を砂利とする場合は、特記による。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。

改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様(地下外壁)

AT-PF2 地下外壁(RC下地) 表1.3.7

工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	対応製品	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(非露出複層防水用、厚さ2.5mm以上)トーチ張り	—	ポリマリット25	—
3	改質アスファルトシート(非露出複層防水用、厚さ2.5mm以上)トーチ張り	—	ポリマリット25	—

・保護緩衝材

仕上1	保護緩衝材の取付け	—	GSプロテクター(GSプロテクターセメント)	0.2
-----	-----------	---	------------------------	-----

- (注) 1. 立上り際の入隅には、あらかじめ200mm幅程度の増張り用シートを張り付ける。
 2. 保護層を現場打ちコンクリートとする場合の鉄筋・型枠の固定方法は、特記による。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。

改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着露出仕様

AT-MF平場(RC・PCa・ALC下地)／立上り(RC下地) 表1.3.8

工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	対応製品	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(露出単層防水用、厚さ4.0mm以上)トーチ張り	—	ポリマリットキャップ	—
仕上1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
 2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部およびALCパネルの接合部には、工程2に先立ち絶縁増張りをする。
 3. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は特記による。
 4. ALCパネル下地の場合は、プライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
 5. 仕上塗料の種類と塗布量は特記による。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーバス類を使用する(70~80㎡あたり1カ所)。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

面材張付け防水工事

改質アスファルトシート張付け防水(トーチ工法・常温粘着工法)

改質アスファルトシート トーチ防水工法・断熱露出仕様

- 対応製品についての詳細は → 39 ページ
- 断熱材厚さについての詳細は → 8 ページ

AT-MT 平場(RC・Pca・ALC下地)

表 1.3.9

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	断熱材張付け	—	ギルフォーム レイコーセメント(点貼り)	— 0.8
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上)張付け	—	ポリマリットST	—
4	改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ3.0mm以上)トーチ張り	—	ポリマリットキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

AT-MT 立上り(RC下地)

表 1.3.9

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ2.5mm以上)トーチ張り	—	ポリマリット25	—
3	改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ3.0mm以上)トーチ張り	—	ポリマリットキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部およびALCパネル短辺接合部には、断熱材の張付けに先立ち、絶縁テープ(幅50mm程度)を張り付ける。
3. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は特記による。
4. ALCパネル下地の場合は、プライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
5. 断熱材の種類および厚さは特記による。張付け方法は防水材製造所の指定による。
6. 「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法に係る事項」(平成28年国土交通省告示第265号、最終改正 令和元年11月15日国土交通省告示第783号)の別表第10に定められた地域1~地域4においては、工程3「断熱材張付け」に先立ち防湿層を設置する。防湿層の種類は特記がない場合は、防湿用シートとする。
7. 仕上塗料の種類と塗布量は特記による。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーを使用する(70~80㎡あたり1カ所)。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・密着保護仕様

AS-PF 平場(RC・Pca下地)/立上り(RC下地) 表 1.3.10

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	全面粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上)張付け	—	ガムクールFX	—
3	全面粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上)張付け	—	ガムクールFX	—

* 立上りは工程3まで

- (注) 1. 平場の保護層として現場打ちコンクリートを用いる場合、その下地は現場打ち鉄筋コンクリート下地のみ適用する。
2. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
3. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部には、工程2に先立ち、増張り用シートにより絶縁増張りを行う。
4. 断熱材の種類および厚さは特記による。張付け方法は防水材製造所の指定による。
5. 保護層の上に植栽を施す場合は、保護層の現場打ちコンクリートの施工に先立ち、耐根シートを敷設する。
6. 保護層を砂利とする場合は、特記による。

・現場打ちコンクリート仕上げの場合

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
仕上 1	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
—	コンクリート施工	—	—	—

・現場打ちコンクリート仕上げ 断熱ありの場合

仕上 1	断熱材用接着剤による断熱材の張付け	—	RBボードまたは スタイロフォームRB-GK-II	—
仕上 2	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000	—
—	コンクリート施工	—	—	—

7. 保護層としてモルタルを用いる場合は室内のみとする。
8. 立上りの仕上げ層を仕上塗料またはなしとする場合は、特記による。その場合、平場の工程3の改質アスファルトシートは入隅で張り止めて、改質アスファルトシート(露出複層防水用)を200mm張りかけてから、立上りを張り付ける。

(対応製品について)

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。

●対応製品についての詳細は → 39 ページ

改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・絶縁露出仕様

AS-MS 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.3.11

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上) 張付け	—	ガムクールFSII	—
3	全面粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ2.0mm以上) 張付け	—	ガムクールキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

AS-MS 立上り(RC下地)

表 1.3.11

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	全面粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上) 張付け	—	ガムクールFX	—
3	全面粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ2.0mm以上) 張付け	—	ガムクールキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
 2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部およびALCパネル短辺接合部には、断熱材の張付けに先立ち、絶縁テープ(幅50mm程度)を張り付ける。
 3. ALCパネル下地の場合のプライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
 4. 脱気装置を設置する。その位置、種類および個数は特記による。
 5. 仕上塗料の種類と塗布量は特記による。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーを使用する(70~80m²あたり1カ所)。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・断熱露出仕様

AS-MT 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.3.12

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	断熱材張付け	—	ギルフォーム レイコーセメント(点貼り)	— 0.8
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上) 張付け	—	ガムクールFSII	—
4	全面粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ2.0mm以上) 張付け	—	ガムクールキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

AS-MT 立上り(RC下地)

表 1.3.12

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	全面粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、厚さ1.5mm以上) 張付け	—	ガムクールFX	—
3	全面粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用、厚さ2.0mm以上) 張付け	—	ガムクールキャップ	—
仕上 1	仕上塗料 塗りまたはなし	—	SPファインカラー	0.4 ~0.6

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。立上りの接合部には絶縁処理を行い、増張りを行う。その方法は特記による。
 2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部およびALCパネル短辺接合部には、断熱材の張付けに先立ち、絶縁テープ(幅50mm程度)を張り付ける。
 3. ALCパネル下地の場合のプライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
 4. 断熱材の種類と厚さは特記による。張付け方法は防水材製造所の仕様による。
 5. 「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法に係る事項」(平成28年国土交通省告示第265号、最終改正 令和元年11月15日国土交通省告示第783号)の別表第10に定められた地域1~地域4においては、工程2「断熱材張付け」に先立ち防湿層を設置する。防湿層の種類は特記がない場合は、防湿用シートとする。

6. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は特記による。
 7. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。

〈対応製品について〉

- ・アスファルトプライマーに代えて、アスファルトプライマーSS、水性プライマーASを使用する場合もあります。
- ・脱気装置の種類および設置数は、特記による。特記がなければ、ステンレスペーパーを使用する(70~80m²あたり1カ所)。
- ・仕上塗料は、SPシリーズをお使いください。

面材張付け防水工事

合成高分子系シート張付け防水

加硫ゴム系シート防水工法・接着仕様

●対応製品についての詳細は →42ページ

●断熱材厚さについての詳細は →8ページ

S-RF 平場(RC・PCa下地)(ALC下地*)／立上り(RC下地)

表 1.3.1

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3)※	プラストプライマー	0.2 (0.3)※
2	接着剤塗り 下地面・シート面	0.4	プラストボンド(下地 0.25/シート 0.15)	0.4
3	加硫ゴム系シート 厚さ1.2mm張付け	—	プラストシートB1.2	—
仕上 1	仕上塗料塗り	—	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3

※ ALCパネル下地の場合は、工程1を()内とする。

※ ALCパネル下地の場合は、工程2にALCパネル短辺接合部に絶縁用テープ張付け(幅50mm程度)が入る。

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。接合部には絶縁処理または増張りを行う。その方法は特記による。
2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部には目地処理を行う。その方法は特記による。
3. 使用するシートの種別は均質シートとする。複合シート(一般複合タイプ)とする場合は、厚さ1.5mmのものとする。
4. シートの張付けに先立ち、出隅角(立上りの出隅の下端)および入隅角(立上りの入隅の下端)には非加硫ゴム系シートを張り付ける。
5. 接着剤は下地側およびシート側の両面にそれぞれ塗布する。特記により、裏面にあらかじめ粘着層を積層または接着剤を塗布したシートを使用する場合は、接着剤は下地側のみに塗布し、シート面には塗布しない。接着剤の使用量は、防水材製造所の指定による。
6. 防水層立上りの末端は、押え金物で固定し、シール材を用いて処理する。
7. 仕上塗料の種類、色および塗布量の指定は、特記による。
8. 表面に着色層を設けた加硫ゴム系シートを使用する場合は、特記による。その場合の仕上層は省略できる。

加硫ゴム系シート防水工法・断熱接着仕様

S-RFT 平場(RC・PCa下地)(ALC下地)／立上り(RC下地)

表 1.3.2

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリエチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3)※	プラストプライマー	0.2 (0.3)※	—	—
2	接着剤塗り 下地面・断熱材面(立上りはシート面)	0.4	プラストボンド(下地 0.25/断熱材 0.15)	0.4	VTエース GIボードW	0.45 —
3	テープ状シール材張付け(立上り際)	—	プラステープRN100	—	—	—
4	断熱材張付け	—	フォームエース	—	—	—
5	接着剤塗り 断熱材面・シート面	0.4	プラストボンド(断熱材 0.15/シート 0.15)	0.3	プラストボンド(断熱材 0.25/シート 0.15)	0.4
6	加硫ゴム系シート 厚さ1.2mm張付け	—	プラストシートB1.2	—	プラストシートB1.2	—
仕上 1	仕上塗料塗り	—	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3	プラストシルバー または プラストカラー	0.2 ~0.3

※ ALCパネル下地の場合は、工程1を()内とする。

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。接合部には絶縁処理または増張りを行う。その方法は特記による。
2. 平場における工程3のテープ状シール材の張付け幅は100mm程度とする。
3. 断熱材の材質はポリエチレンフォームとし、その厚さは特記による。張付け方法は、防水材製造所の指定による。
(なお、近年、高断熱化の要求に対して、断熱材の厚みを極力増加させずに対応することを目的として、硬質ウレタンフォームの採用も増加している。: JASS8 解説本文 P146より)
4. 使用するシートの種別は均質シートとする。複合シート(一般複合タイプ)とする場合は、厚さ1.5mmのものとする。
5. シートの張付けに先立ち、出隅角(立上りの出隅の下端)および入隅角(立上りの入隅の下端)には非加硫ゴムシートを張り付ける。
6. 接着剤は、下地側および断熱材側の両面、断熱材側およびシート側の両面、ならびに立上りの下地側およびシート側の両面に塗布する。特記により、裏面にあらかじめ粘着層を積層または接着剤を塗布したシートを使用する場合は、接着剤は下地側のみに塗布し、シート面には塗布しない。接着剤の使用量は、防水材製造所の指定による。
7. 防水層立上りの末端は、押え金物で固定し、シール材を用いて処理する。
8. 仕上塗料の種類、色および塗布量の指定は、特記による。
9. 表面に着色層を設けた加硫ゴム系シートを使用する場合は、特記による。その場合の仕上層は省略できる。

- 対応製品についての詳細は → 42ページ
- 断熱材厚さについての詳細は → 8ページ

塩化ビニル樹脂系シート防水工法・接着仕様

S-PF 平場(RC・PCa下地)(ALC下地*) / 立上り(RC下地)

表 1.3.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 下地面・シート面	0.4	VTボンド(下地 0.2/シート 0.2)	0.4
2	塩化ビニル樹脂系シート 厚さ1.5mm張付け	—	ビュートップU15*	—

* ALCパネル下地の場合は、プライマー塗布後、ALCパネル短辺接合部に絶縁用テープ張付け(幅50mm程度)が入る。

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。接合部には絶縁処理または増張りを行う。その方法は特記による。
2. 平場のプレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部には目地処理を行う。その方法は特記による。
3. 使用するシートの種別は、均質または複合シートとする。種類の指定は特記による。
4. 接着剤は合成ゴム系、エポキシ樹脂系およびポリウレタン系とする。平場にエポキシ樹脂系の接着剤を用いる場合、その使用量は下地面のみに0.4kg/m²、ポリウレタン系の接着剤を用いる場合、その使用量は下地面のみに0.35kg/m²とする。
5. シート施工後、出隅角(立上り出隅の下端)および入隅角(立上り入隅の下端)には成形役物を張り付け、その端部は液状シール材を用いて処理する。
6. 防水層立上りの末端は、押え金物で固定し、シール材を用いて処理する。
7. 合成ゴム系接着剤は下地側およびシート側の両面に、エポキシ樹脂系接着剤およびポリウレタン系接着剤は下地面のみに塗布する。接着剤の使用量は、防水材製造所の指定による。

〈対応製品について〉

* ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。

・ALCパネル下地のプライマーには、リグレー・ネオまたはリグレーエポ、絶縁用テープはPカッターテープがあります。

塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱接着仕様

S-PFT 平場(RC・PCa下地)(ALC下地*)

表 1.3.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリエチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 下地面・断熱材面	0.4	ブラストボンド(下地 0.25/断熱材0.15)	0.4	VTエース	0.45
2	断熱材張付け	—	フォームエース	—	GIボードW	—
3	断熱材の固定金具による固定(立上り際)	—	UP-3等	—	UP-8・VTシール	—
4	接着剤塗り 断熱材面・シート面	0.4	ブラストボンド(断熱材 0.15) VTボンド(シート 0.25)	0.4	VTボンド(断熱材 0.2/シート 0.2)	0.4
5	塩化ビニル樹脂系シート 厚さ1.5mm張付け	—	ビュートップU15*	—	ビュートップU15*	—

* ALCパネル下地の場合は、工程1の前にプライマー塗布が入る。

S-PFT 立上り(RC下地)

表 1.3.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリエチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 下地面・シート面	0.4	VTボンド(下地 0.2/シート 0.2)	0.4	VTボンド(下地 0.2/シート 0.2)	0.4
2	塩化ビニル樹脂系シート 厚さ1.5mm張付け	—	ビュートップU15*	—	ビュートップU15*	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。接合部には絶縁処理または増張りを行う。その方法は特記による。
2. 断熱材の材質はポリエチレンフォームとし、その厚さは特記による。張付け方法は、防水材製造所の指定による。
(なお、近年、高断熱化の要求に対して、断熱材の厚みを極力増加させずに対応することを目的として、硬質ウレタンフォームの採用も増加している。:JASS8 解説本文 P146より)
3. 使用するシートの種別は、均質または複合シートとする。種類の指定は、特記による。
4. 接着剤は合成ゴム系とする。
5. 合成ゴム系接着剤は、下地側および断熱材側の両面、断熱材側およびシート側の両面、立上りの下地側およびシート側の両面に塗布する。特記により、両面に接着処理された断熱材を使用する場合は、断熱材側には接着剤を塗布しない。接着剤の使用量は、防水材製造所の指定による。
6. シート施工後、出隅角(立上り出隅の下端)および入隅角(立上り入隅の下端)には成形役物を張り付け、その端部は液状シール材を用いて処理する。
7. 防水層立上りの末端は、押え金物で固定し、シール材を用いて処理する。

〈対応製品について〉

* ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。

・ALCパネル下地のプライマーには、リグレー・ネオまたはリグレーエポがあります。

・当社仕様では平面部工程1に先立ち、ブラストプライマー(0.2kg/m²)を塗布する。

面材固定防水工事

合成高分子系シート固定防水

塩化ビニル樹脂系シート防水工法・機械的固定仕様

- 対応製品についての詳細は →42 ページ
- 断熱材厚さについての詳細は →8 ページ

S-PM 平場(RC・PCa下地)／立上り(RC下地)

表 1.4.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	塩化ビニル樹脂系シート 厚さ1.5mmの固定金具による固定	—	ビュートップU15※ UPプレート・UPディスク	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは特記による。
2. 使用するシートの厚さは、特記のない場合、1.5mmとする。
3. 出入隅角は、シート施工後、成形役物を張り付け、その端部は、液状シール材を用いて処理する。
4. 立上りおよび立下りを接着工法とする場合は、特記による。
5. 防水層の立上りおよび立下りの末端は固定金具に固定し、不定形シール材を用いて処理する。

6. ALCパネル下地への適用は、特記による。
7. シートの固定方法は、防水材製造所の指定による。その場合の固定金具の個数は、設計風圧力に基づいて決定する。

〈対応製品について〉

※ ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。

塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱機械的固定仕様

S-PMT 平場(RC・PCa下地)／立上り*(RC下地)

表 1.4.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ウレタンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)	対応製品 (ポリスチレンフォームの場合)	使用量 (kg/m ²)
1	断熱材の敷き並べ	—	VTボード	—	スタイロエースII	—
2	可塑剤移行防止用シートの敷き並べ	—	—	—	PSマット	—
3	塩化ビニル樹脂系シート 厚さ1.5mmの固定金具による固定	—	ビュートップU15※ UPプレート UPディスク	—	ビュートップU15※ UPプレート UPディスク	—

* 立上りは工程1、2を省略する。

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは特記による。
2. 使用するシートの厚さは、特記のない場合、1.5mmとする。
3. 出入隅角は、シート施工後、成形役物を張り付け、その端部は、液状シール材を用いて処理する。
4. 立上りおよび立下りを接着工法とする場合は、特記による。
5. 断熱材、可塑剤移行防止用シートの敷き並べおよび固定方法は、防水材製造所の指定による。ただし、硬質ポリウレタンフォームまたは可塑剤移行防止用シート付きポリスチレンフォームの場合は、可塑剤移行防止用シートの敷き並べは行わない。
6. 防水層の立上りおよび立下りの末端は、固定金具に固定し、不定形シール材を用いて処理する。
7. ALCパネル下地への適用は、特記による。

8. 「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法等に係る事項（平成28年国土交通省告示265号 最終改正 令和元年11月15日国土交通省告示第783号）の別表10の地域1、地域2、地域3および地域4においては、工程1「断熱材の敷き並べ」に先立ち、防湿用フィルムを敷き並べる。
9. シートの固定方法は、防水材製造所の指定による。その場合の固定金具の個数は、設計風圧力に基づいて決定する。

〈対応製品について〉

※ ビュートップU15以外のシートも適用できます。詳しくは営業員までお問い合わせください。

不定形材塗布・吹付け防水工事

塗膜防水

●対応製品についての詳細は → 46ページ

ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様

L-UFS 平場(RC・PCa下地)

表 1.5.1

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー-A	0.2
2	補強布張付け(ウレタンゴム系高伸長形防水材)	3.9	メッシュUB オルタックエース	—
3	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		オルタックエース	1.8
4	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		オルタックエース	1.4
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート類	0.2

L-UFS 立上り(RC下地)

表 1.5.1

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー-A	0.2
2	補強布張付け(ウレタンゴム系高伸長形防水材)	2.6	メッシュUB 立上り用オルタックエース	—
3	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		立上り用オルタックエース	1.2
4	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		立上り用オルタックエース	1.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート類	0.2

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
2. ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.3である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合には、下表の使用量とする。

		硬化物比重						換算 膜厚
		1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	
使用量 (kg/m ²)	平場	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	3mm
	立上り	2.0	2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	2mm

3. ウレタンゴム系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するウレタンゴム系防水材の性状や下地の状況などにより、工程数を増やすようにする。なお、ウレタンゴム系防水材の1工程あたりの使用量は、平場は2.5kg/m²以下、立上りは1.5kg/m²以下とする。
4. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部の処理は、特記による。
5. ウレタンゴム系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) の屋根用のウレタンゴム系高伸長形とする。

ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着仕様

L-UFH 平場(RC・PCa下地)

表 1.5.2

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー-QQ	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け	3.0	オルタックスプレー-FF	3.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート-QQ	0.2

L-UFH 立上り(RC下地)

表 1.5.2

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマー-QQ	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け	2.0	オルタックスプレー-FF	2.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート-QQ	0.2

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
2. ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重は1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合には、下表の使用量とする。

		硬化物比重		換算 膜厚
		1.0	1.1	
使用量 (kg/m ²)	平場	3.0	3.3	3mm
	立上り	2.0	2.2	2mm

3. ウレタンゴム系防水材は総使用量を示している。

●ウレタンゴム系塗膜防水材 硬化物比重

オルタックエース	1.2
立上り用オルタックエース	1.3
オルタックスプレー-FF	1.0

不定形材塗布・吹付け防水工事

塗膜防水

●対応製品についての詳細は →46 ページ

ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・絶縁仕様

L-USS 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.5.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	通気緩衝シート張付け	—	オルタックシートGS	—
2	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り	3.9	オルタックエース	1.8
3	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		オルタックエース	1.8
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート類	0.2

L-USS 立上り(RC下地)

表 1.5.3

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマーA	0.2
2	補強布張付け(ウレタンゴム系高伸長形防水材)	2.6	メッシュUB 立上り用オルタックエース	— 0.4
3	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		立上り用オルタックエース	1.2
4	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		立上り用オルタックエース	1.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコート類	0.2

(注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
2. ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.3である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合にあっては、下表の使用量とする。

使用量 (kg/m ²)		硬化物比重						換算 膜厚
		1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	
	平場	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	3mm
	立上り	2.0	2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	2mm

3. ウレタンゴム系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するウレタンゴム系防水材の性状や下地の状況などにより、工程数を増やすようにする。なお、ウレタンゴム系防水材の1工程あたりの使用量は、平場は2.5kg/m²以下、立上りは1.5kg/m²以下とする。
4. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材・ALCパネルの接合部の処理は、特記による。
5. ALCパネルの表面は、目止めを行う。その材料は特記による。
6. ウレタンゴム系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) の屋根用のウレタンゴム系高伸長形とする。
7. 通気緩衝シートの張付け方法は、防水材製造所の指定による。
8. 脱気装置を設置する場合、その位置、種類、個数は特記による。

ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁仕様

L-USH 平場(RC・PCa・ALC下地)

表 1.5.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	通気緩衝シート張付け	—	オルタックシートGS	—
2	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け	3.0	オルタックスプレーFF	3.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコートQQ	0.2

L-USH 立上り(RC下地)

表 1.5.4

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	OTプライマーQQ	0.2
2	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け	2.0	オルタックスプレーFF	2.0
仕上 1	仕上塗料塗り	0.2	OTコートQQ	0.2

(注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
2. ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合にあっては、下表の使用量とする。

使用量 (kg/m ²)		硬化物比重		換算 膜厚
		1.0	1.1	
	平場	3.0	3.3	3mm
	立上り	2.0	2.2	2mm

3. ウレタンゴム系防水材の使用量は、総使用量を示している。
4. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材・ALCパネルの接合部の処理は、特記による。
5. ALCパネルの表面は、目止めを行う。その材料は特記による。
6. ウレタンゴム系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) の屋根用のウレタンゴム系高強度形とする。なお、高強度形は超速硬化吹付けタイプとする。
7. 通気緩衝シートの張付け方法は、防水材製造所の指定による。
8. 脱気装置を設置する場合、その位置、種類、個数は特記による。

●対応製品についての詳細は → 49 ページ

アクリルゴム系塗膜防水工法・外壁仕様

L-AW 外壁(RC・PCa・ALC下地)

表 1.5.5

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.1	RVシーラーエボ	0.07 ~0.17
2	アクリルゴム系防水材塗り	1.7	RVボースイタイルS	1.5 ~1.8
仕上 1	模様材塗り	—	RVボースイタイルS	0.7 ~1.3
仕上 2	仕上塗料塗り	0.15	RVコートセラ	0.15 ~0.2
仕上 3	仕上塗料塗り	0.15	RVコートセラ	0.15 ~0.2

- (注) 1. 下地がプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALC/パネルの場合の目地部の処理は、特記による。
 2. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材・ALC/パネルの接合部の防水層の施工方法は、特記による。
 3. ALC/パネルの表面は、目止めを行う。その材料は特記による。
 4. アクリルゴム系防水材の使用量は、硬化後の防水層の厚さの目安を約1mmとして、固形分75%の場合を示す。それ以外のものは、固形分により使用量を換算する。
 5. 本仕様の施工法は、吹付けによる。ローラー塗りの施工法と使用量は特記による。
 6. 模様材の種類と使用量は、特記による。
 7. 仕上塗料の種類は特記による。
 8. 使用するアクリルゴム系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) の外壁用のアクリルゴム系とする。

不定形材塗布・吹付け防水工事

塗膜防水

●対応製品についての詳細は → 48 ページ

ゴムアスファルト系塗膜防水工法・室内仕様

L-GI 平場 (RC・PCa下地) / 立上り (RC下地)

表 1.5.6

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2
2	補強布張付け(ゴムアスファルト系防水材)	4.5	ビルコートS※ BCマットPC	2.0 —
3	ゴムアスファルト系防水材塗り		ビルコートS※	1.3

・現場打ちコンクリート仕上げの場合

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
仕上 1	絶縁用シートの敷込み	—	絶縁クロス1000 または 絶縁シート	—
—	コンクリート施工	—	—	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
2. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部の下地処理は、特記による。
3. ゴムアスファルト系防水材の使用量は、硬化後の防水層の厚さの目安を約2.7mmとして、固形分が60%の場合を示す。それ以外のものは、固形分により使用量を換算する。
4. ゴムアスファルト系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するゴムアスファルト系防水材の性状や工法により、工程数を増やすことができる。

5. 使用するゴムアスファルト系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) に適合する手塗りタイプのものとする。

〈対応製品について〉

※ 立上りには、ビルコートSにビル増粘剤を添加します。

●ゴムアスファルト系防水材 固形分

ビルコートS	84%
--------	-----

ゴムアスファルト系塗膜防水工法・地下外壁仕様

L-GU 地下外壁(RC下地)

表 1.5.7

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー吹付けまたは塗り	0.2	水性プライマーC (5倍希釈)	0.2
2	ゴムアスファルト系防水材吹付けまたは塗り	7.0	ビルコートS(ビル増粘剤を添加)	5.0
仕上 1	保護緩衝材の取付け	—	GSプロテクター (GSプロテクターセメント)	0.2

- (注) 1. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部の下地処理は、特記による。
2. 現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部は増吹きする。その吹付量は、特記による。
3. ゴムアスファルト系防水材の使用量は、硬化後の防水層の厚さの目安を約4mmとして、固形分が60%の場合を示す。それ以外のものは、固形分により使用量を換算する。

4. ゴムアスファルト系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するゴムアスファルト系防水材の性状や工法により、工程数を増やすことができる。
5. 使用するゴムアスファルト系防水材は、JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) の適合する吹付けタイプおよび手塗りタイプのものとする。
6. 現場打ちコンクリートを保護層とする場合は、鉄筋・型枠の固定方法は特記による。

●ゴムアスファルト系防水材 固形分

ビルコートS	84%
--------	-----

不定形材塗布・吹付け防水工事

セメント系防水

●対応製品についての詳細は →49ページ

ポリマーセメント系塗膜防水工法

C-PF仕様 (Aタイプ) 塗布量 (3.0kg/m²) 目標厚み (硬化後) 1.6mm

表 1.5.10

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	TLコートAまたはB (2~5倍希釈)	0.2
2	ポリマーセメント系 塗膜防水材塗りAタイプ 補強布張り	1.2	TLコート・レギュラー TLクロス張り	1.2
3	ポリマーセメント系 塗膜防水材塗りAタイプ	0.9	TLコート・レギュラー	1.0
4	ポリマーセメント系 塗膜防水材塗りAタイプ	0.9	TLコート・レギュラー	1.0

C-PU仕様 (Bタイプ) 塗布量 (2.5kg/m²) 目標厚み (硬化後) 1.1mm

表 1.5.10

工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	対応製品	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2	TLコートAまたはB (2~5倍希釈)	0.2
2	ポリマーセメント系 塗膜防水材塗りBタイプ	1.5	TLコート・ハード	1.3
3	ポリマーセメント系 塗膜防水材塗りBタイプ	1.0	TLコート・ハード	0.9

- (注) 1. 表中の使用量は、標準の硬化塗膜比重 (C-PF: 1.5、C-PU: 1.8) および全固形分 (80%) の場合のポリマーセメント系塗膜防水材の塗布量を示す。
 2. ポリマーセメント系塗膜防水材の塗布量は、式①により換算する。

$$W = T \times G \times 100 / C \quad \text{式①}$$

ここに、W: 塗布量 (kg/m²)
 T: 目標厚み (硬化後) (mm)
 G: 硬化塗膜比重
 C: 全固形分 (%)

なお、表中の目標厚み (硬化後) は、防水材単独の厚みであり、プライマー、補強布の厚みは考慮していない。硬化塗膜比重は、JASS 8 M-103の試験により得られた数値を採用する。

以下に、全固形分および硬化塗膜比重が標準と異なる場合の各仕様別塗布量の計算例を示す。

全固形分 (%)	C-PF 目標厚み 1.6mm	硬化塗膜比重				
		1.3	1.4	1.5	1.6	1.7
		塗布量 (kg/m ²)				
	84	2.5	2.7	2.9	3.0	3.2
	82	2.5	2.7	2.9	3.1	3.3
	80	2.6	2.8	3.0	3.2	3.4
	78	2.7	2.9	3.1	3.3	3.5
	76	2.7	2.9	3.2	3.4	3.6
	74	2.8	3.0	3.2	3.5	3.7
	72	2.9	3.1	3.3	3.6	3.8
	70	3.0	3.2	3.4	3.7	3.9

全固形分 (%)	C-PF 目標厚み 1.1mm	硬化塗膜比重				
		1.6	1.7	1.8	1.9	2.0
		塗布量 (kg/m ²)				
	84	2.1	2.2	2.4	2.5	2.6
	82	2.1	2.3	2.4	2.5	2.7
	80	2.2	2.3	2.5	2.6	2.8
	78	2.3	2.4	2.5	2.7	2.8
	76	2.3	2.5	2.6	2.8	2.9
	74	2.4	2.5	2.7	2.8	3.0
	72	2.4	2.6	2.8	2.9	3.1
	70	2.5	2.7	2.8	3.0	3.1

●ポリマーセメント系防水材 固形分

	配合比	硬化後比重	全固形分
Aタイプ: TLコート・レギュラー	TLコートAまたはB: TLコートC = 1:1	1.5	74.5%
Bタイプ: TLコート・ハード	TLコートAまたはB: TLコートC = 1:2	1.65	83%

アスファルト防水

アスファルトプライマー

アスファルトプライマー



アスファルト系溶剤プライマーです。

- 15.5kg/缶

アスファルトプライマー SS



速乾性のアスファルト系溶剤プライマーです。

- 16kg/缶

水性プライマー AS



アスファルト系水性プライマーです。

- 17kg/缶

アスファルト系下地調整材

リベース



既存アスファルト防水層の上から塗布するだけで、防水層を活性化させるアスファルト系下地処理材です。

- 20kg/缶

アスファルト

アスタイト M



臭気濃度や発煙量を抑えたクリーンタイプの防水工事用アスファルトです。

- 25kg/袋
- JIS K 2207-3種
- 備考：東西アス協組専用材料

ハイコート M



煙や臭いの少ないクリーンタイプの防水工事用アスファルトです。

- 25kg/袋
- JIS K 2207-3種

アスファルト

クリンタイトJ



煙と臭いの発生量を抑えた防水工用改質アスファルトです。溶融釜にそのまま投入可能な特殊フィルム包装です。

- 10kg/袋
- JIS K 2207-3種
- 備考：東西アス協組専用材料

ハイトイトJ



低煙・低臭タイプの環境対応型改質アスファルトです。溶融釜にそのまま投入可能な特殊フィルム包装です。

- 10kg/袋
- JIS K 2207-3種

アスキング



アスファルト臭軽減のため溶融釜に投入する、液体のマスキング剤です。

- 1kg/缶

砂付あなあきルーフィング

フリースポット



ガラスマット100%の基材を用いた、寸法安定性に優れたあなあきルーフィングです。

- 1m×8m巻 厚さ：2.5mm
- JIS A 6023 砂付あなあきルーフィング 2500

粘着層付改質アスファルトルーフィング

ストライプルーフィング



部分接着用改質アスファルトルーフィングで、裏面の粘着層がストライプ状になっており、下地からの水蒸気を通気・拡散します。

- 1m×16m巻 厚さ：1.5mm (粘着層を含まない)
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

アスファルトルーフィング

アスファルトルーフィング



基材の原紙にアスファルトを含浸塗覆し、鉱物質粉粒で仕上げたルーフィングです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.5mm
- JIS A 6005 アスファルトルーフィング1500

ストレッチルーフィング

ハイスター



不織布基材に、アスファルトを含浸塗覆させた不織布ルーフィングです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.6mm
- JIS A 6022 ストレッチルーフィング1000

砂付ストレッチルーフィング

強力砂付



表面に天然砂粒を密着させた、露出防水用砂付ルーフィングです。

- 1m×8m巻 厚さ：3.0mm
- JIS A 6022 砂付ストレッチルーフィング800
- 彩色強力砂付「新緑色(受注生産品)」もあります。

改質アスファルトルーフィング

GT5000



改質アスファルトを十分含浸塗覆させた非露出複層防水用ルーフィングです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.7mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

ガムトップ25



改質アスファルトを十分含浸塗覆させた露出複層防水用ルーフィングです。露出防水の仕上げに用いる場合は、保護塗料を塗布します。

- 1m×8m巻 厚さ：2.5mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出複層防水用R種

砂付ガムトップ



改質アスファルトを十分含浸塗覆させた露出単層防水用の砂付ルーフィングです。

- 1m×8m巻 厚さ：3.4mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出単層防水用R種

絶縁用シート

絶縁クロス1000



フラットヤーンクロスを使用したポリプロピレン製の絶縁材です。

- 1m×100m巻
- 70g/m²

絶縁シート



ポリエチレンフィルムを使用した絶縁材です。

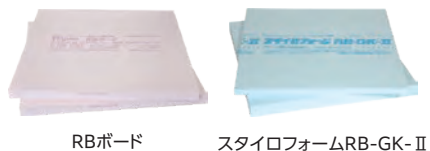
- 1m×100m巻 厚さ：0.15mm

各種断熱材 厚さ別梱包数 (単位：枚)

厚さ(mm)	25	30	35	40	50	60	70	75
RBボード								
スタイロフォーム RB-GK-II	20	15	15	10	10	8	—	—
ギルフォーム	S	16	14	12	10	8	7	6
	W	10	8	7	6	5	4	3

断熱材

RBボード/スタイロフォームRB-GK-II(保護防水用)

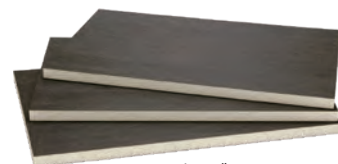
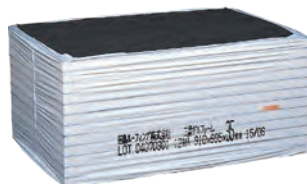


RBボード スタイロフォームRB-GK-II

両面にスキン層を設けた押し出しタイプの完全ノンフロン硬質ポリスチレンフォーム断熱材です。
(熱伝導率：0.028W/m・K)

- 910mm×910mm ● 梱包数は下表参照
- 厚さ：25・30・35・40・50・60mm
- JIS A 9521：押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA

ギルフォームS/W(露出防水用)



写真はギルフォーム35S

硬質ウレタンフォーム系ボードにアスファルト含浸(60mm品は樹脂含浸)ガラスマットを張合わせた完全ノンフロン断熱材です。(熱伝導率：0.023W/m・K)

- ギルフォームS：605mm×910mm ギルフォームW：900mm×1,200mm(ギルフォームWは受注生産品)
- 厚さ：25・30・35・40・50・60・70・75mm(Sの70・75mmは受注生産品) ● 梱包数は下表参照
- JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材3種1号の規格に適合する。ならびに、JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号または2号で透湿係数を除く規格に適合する。

網状アスファルトルーフィング

テトロメッシュ2号



柔軟で馴染みやすい合成繊維メッシュにアスファルトを含浸させたもので、出入隅角などの複雑な部位の補強、増張りに使用します。

- 100・150・200・300mm 1m×33m巻(150・200mmは受注生産品)
- JIS A 6012 合成繊維 網状アスファルトルーフィング

シール材

強力ガムシール



防水層の貼仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材です。

- 330ccカートリッジ 20本/箱
9kg/缶・20kg/缶

GCライン



防水層の貼仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材です。
※ GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

- 330ccカートリッジ 850ccジャンボカート 各10本/箱

成型キャント材

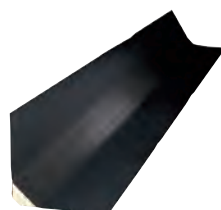
ギルキャント



硬質ウレタンフォームにガラスマットを張り合わせたコーナー面取り材です。

- 長さ：910mm 50本/箱

ガムキャントFX



ウレタンフォームの芯と片面粘着シートを組合わせた、コーナー部の増張りを兼ねる面取り材です。

- 本体長さ：910mm +ラップ：100mm 20本/箱

RBキャント1500



発泡ポリエチレン製緩衝材です。裏が粘着面となっていて、立上り際の下地になじむよう切り込みが入っています。

- 1,500mm×150mm 厚さ：20mm
- 34本/箱

仕上塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とするアスファルト系防水材専用の高反射塗料です。夏季防水層の温度上昇を抑制します。

- 18kg/缶
- 全4色
- 水性塗料

SPミッドカラー



明度を下げることで照り返しによる眩しさを抑えつつ、優れた遮熱効果を発揮するアスファルト系防水材専用高反射水性塗料です。

- 18kg/缶
- 全4色
- 水性塗料

SPサーモコート/SPスーパーサーモコート



アクリル樹脂に骨材を加えた、優れた反射機能をもつ高反射厚膜水性保護塗料です。

- 各18kg/缶
- SPサーモコート 全3色
- SPスーパーサーモコート 全1色
- ※ 特注色はSPプロテクションコート(非高反射型)にて対応可。
- 水性塗料

仕上塗料

SPマルチカラー 31kgセット



アスファルト露出防水層用の水性アクリル系保護塗料です。上塗り用は珪砂入りです。
※高反射タイプではありません。

- 31kg/セット(下塗り用:18kg/缶、上塗り用:13kg/缶)
- 全3色(下塗り用は共通1色)
- 水性塗料

SPクリーンカラー



土、砂、花粉、珪藻類等の自然環境に起因した堆積物の影響から防水層表面を保護する効果をもつ、骨材入り高反射保護塗料です。

- 18kg/缶
- 全3色
- 水性塗料

SPシルバー



樹脂系溶液にアルミニウム粉末を分散させた露出防水用の保護塗料で、防水層の劣化を抑制します。低温時でも施工が可能です。
塗布量:0.3kg/m² ※高反射タイプではありません。

- 15.5kg/缶
- シルバー色
- 溶剤系塗料

仕上塗料

SPコートone



アスファルト系防水用溶剤系高反射保護塗料です。
塗布量:0.3~0.5kg/m²

- 18kg/缶
- グレー色
- 溶剤系塗料
- ※ 2,000m²以上の場合、納期がかかる場合があります。

改質アスファルトシート防水

アスファルトプライマー

アスファルトプライマー



アスファルト系溶剤プライマーです。

- 15.5kg/缶

アスファルトプライマー SS



速乾性のアスファルト系溶剤プライマーです。

- 16kg/缶

水性プライマー AS



アスファルト系水性プライマーです。

- 17kg/缶

改質アスファルトシート (トーチ工法)

ポリマリット25



2層工法に用いる下張り、および立上り部用の改質アスファルトシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：2.5mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

ポリマリット35



表面を細砂で仕上げたシートです。露出防水の仕上げに用いる場合は、保護塗料を塗布します。

- 1m×8m巻 厚さ：3.5mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出複層防水用R種

ポリマリット40



表面を細砂で仕上げたシートです。露出防水の仕上げに用いる場合は、保護塗料を塗布します。

- 1m×8m巻 厚さ：4.0mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出単層防水用R種

改質アスファルトシート (トーチ工法)

ポリマリットキャップ



表面に天然スレート砂を圧着した砂付タイプのキャップシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：4.0mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出単層防水用R種

ポリマリットST



裏面に通気機能をもつストライプ状のゴムアス粘着層を設けた、下張り用改質アスファルトシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：2.3mm (粘着層を含まない)
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

ポリマリットGL



裏面全面にゴムアス粘着層を設けた、密着工法下張り用改質アスファルトシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：2.0mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

改質アスファルトシート(トーチ工法)

PMスポット32



部分接着工法の下張り材として用いられる、ポリマリット専用のあなあきシートです。

- 1m×32m巻 厚さ:0.8mm

改質アスファルト系テープ(トーチ工法)

メルトテープR



改質アスファルトのテープです。ドレン廻り、パイプ廻りなどに、バーナーで加熱溶融して使います。

- 150mm×25m 厚さ:1.0mm厚

ポリマリットGL(カット200)



片面粘着タイプのテープです。入り隅部などの増張り、ALCパネル短辺部の補強に使用します。

- 200mm×8m 厚さ:2.0mm

仕上塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とするアスファルト系防水材専用の高反射塗料です。夏季防水層の温度上昇を抑制します。

- 18kg/缶
- 全4色
- 水性塗料

SPミッドカラー



明度を下げることで照り返しによる眩しさを抑えつつ、優れた遮熱効果を発揮するアスファルト系防水材専用高反射水性塗料です。

- 18kg/缶
- 全4色
- 水性塗料

SPサーモコート/SPスーパーサーモコート



アクリル樹脂に骨材を加えた、優れた反射機能をもつ高反射厚膜水性保護塗料です。

- 各18kg/缶
- SPサーモコート 全3色
- SPスーパーサーモコート 全1色
- ※ 特注色はSPプロテクションコート(高反射型)にて対応可。
- 水性塗料

仕上塗料

SPマルチカラー 31kgセット



アスファルト露出防水層用の水性アクリル系保護塗料です。上塗り用は珪砂入りです。
※高反射タイプではありません。

- 31kg/セット(下塗り用:18kg/缶、上塗り用:13kg/缶)
- 全3色(下塗り用は共通1色)
- 水性塗料

SPクリーンカラー



土、砂、花粉、珪藻類等の自然環境に起因した堆積物の影響から防水層表面を保護する効果をもつ、骨材入り高反射保護塗料です。

- 18kg/缶
- 全3色
- 水性塗料

SPシルバー



樹脂系溶液にアルミニウム粉末を分散させた露出防水用の保護塗料で、防水層の劣化を抑制します。低温時でも施工が可能です。

塗布量:0.3kg/m² ※高反射タイプではありません。

- 15.5kg/缶
- シルバー色
- 溶剤系塗料

改質アスファルトシート (常温粘着工法)

ガムクールFS



裏面をストライプ状の断続した粘着層とした、部分粘着改質アスファルトシートです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.0mm (粘着層を含まない)

ガムクールFSⅡ



ガムクールFSの厚手タイプで、断熱材直上部に用いる常温工法用改質アスファルトシートです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.5mm (粘着層を含まない)
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

ガムクールキャップ



表面に碎石砂粒を圧着し、裏面に全面粘着層を設けた砂付改質アスファルトシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：2.9mm厚
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出複層防水用R種

改質アスファルトシート (常温粘着工法)

ガムクールキャップEX



表面に碎石砂粒を圧着した裏面が全面粘着層タイプの砂付改質アスファルトシートです。

- 1m×8m巻 厚さ：3.5mm厚
- ※ 彩色ガムクールキャップEX (色：新緑、赤茶) は受注生産品です (納期約2~3週間)。複層工法の彩色砂付仕上げにもご使用いただけます。
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 露出単層防水用R種

ガムクールFX



裏面が全面粘着層タイプの下張り用改質アスファルトシートです。

- 1m×16m巻 厚さ：1.5mm
- JIS A 6013 改質アスファルトルーフィングシート 非露出複層防水用R種

改質アスファルト系テープ (常温粘着工法)

ガムリッチ18

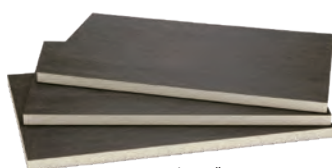
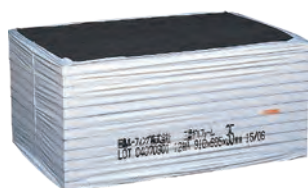


伸張性の基材を用いた、出入隅部、ドレン周囲部への増張り用の両面粘着ゴムアステープです。

- 180mm×8m巻 厚さ：1.4mm

断熱材

ギルフォームS/W (露出防水用)



写真はギルフォーム35S

硬質ウレタンフォーム系ボードにアスファルト含浸 (60mm品は樹脂含浸) ガラスマットを張合わせた完全ノンフロン断熱材です。(熱伝導率：0.023W/m・K)

- ギルフォームS：605mm×910mm ギルフォームW：900mm×1,200mm (ギルフォームWは受注生産品)
- 厚さ：25・30・35・40・50・60・70・75mm (Sの70・75mmは受注生産品) ● 梱包数はP37表参照
- JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材3種1号の規格に適合する。ならびに、JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号または2号で透湿係数を除く規格に適合する。

接着剤

レイコーセメント



合成ゴムと高級アスファルトを石油系溶剤でペーストタイプに仕上げた、断熱材ギルフォーム張付け用の接着剤です。

- 18kg/缶

合成高分子系ルーフィングシート防水

プライマー(加硫ゴムシート用)

プラストプライマー



RC下地用プライマーです。

- 15kg/缶

プラストプライマー ALC



ALC下地用プライマーです。

- 15kg/缶

接着剤(加硫ゴムシート用)

プラストボンド



加硫ゴムシート、断熱材張付け用接着剤です。

- 15kg/缶

加硫ゴム系ルーフィングシート

プラストシートB1.2



EPDMを使用した防水シートです。

- 1.2m×20m巻 厚さ: 1.2mm
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート 加硫ゴム系

仕上塗料(加硫ゴムシート用)

プラストシルバーA/プラストカラーA



プラストシートB用アクリル水性保護塗料です。

- 各15kg/缶
- 色: シルバー、グレー、グリーン

プラストシルバーB/プラストカラーB



プラストシートB用溶剤系保護塗料です。

- 各15kg/缶
- 色: シルバー、グレー、グリーン

不定形シール

プラストシール



加硫ゴムシート端末等に使用するブチル系シール材です。

- 330ccカートリッジ 25本/箱

接着剤 (塩化ビニル樹脂系シート用)

VTボンド



トルエン・キシレンを使用していない、ニトリルゴムを主成分とした塩ビシート用接着剤です。

- 15kg/缶
- F☆☆☆☆

塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート

ビュートップM20



ポリ塩化ビニル樹脂系の防水シートです。ジョイント部は、溶着剤、熱風溶接機で溶着し、連続一体化させます。

- 1.2m×10m巻 厚さ：2.0mm
- 全5色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート一般複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート

ビュートップU15/U20



下地へ機械的に固定したディスクやプレート、シートのジョイント部に溶着剤で溶着施工する防水シートです。

- 1.2m×10m巻 厚さ：1.5mm (U15)・2.0mm (U20)
- 全5色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート一般複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

ビュートップC15/C20



高反射機能を備えたシートです。

- 1.2m×10m巻 厚さ：1.5mm (C15)・2.0mm (C20) (ビュートップC20は受注生産品)
- 全1色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート一般複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

ビュートップZ20/ZC20



耐久性を大幅に向上させた防水シートです。ZC20は高反射品です。

- 1.2m×10m巻 厚さ：2.0mm (ZC20は受注生産品)
- 全1色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート一般複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート

ビュートップH15/H20



ポリエステルメッシュを基材とした補強複合シートです。

- 1.2m×10m巻 厚さ：1.5mm (H15)・2.0mm (H20) (ビュートップH20は受注生産品)
- 全1色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート補強複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

ビュートップHC15/HC20



ポリエステルメッシュを基材とした高反射タイプの補強複合シートです。

- 1.2m×10m巻 厚さ：1.5mm (HC15)・2.0mm (HC20) (HC15・HC20 共に受注生産品)
- 全1色
- JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート複合シート補強複合タイプ塩化ビニル樹脂系適合

緩衝材

Uマット200

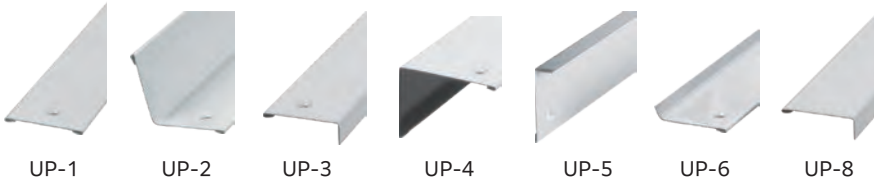


下地の不陸を緩和する発泡ポリエチレン製の緩衝マットです。

- 1.16m×50m巻 厚さ：2.0mm厚

副資材

UPプレート



UP-1 UP-2 UP-3 UP-4 UP-5 UP-6 UP-8

溶融亜鉛メッキ鋼板の両面に塩ビ層を配し、入隅や防水端末部、ドレン周りの固定に用いるプレートです。

- 7種類の断面形状あり 長さ2m 各10本/包

UPディスク/免振ディスク



UPディスク 免振ディスク

ステンレス鋼板の上面に塩ビ層を配し、機械的固定工法で一般平面部の固定に用いるディスクです。免振ディスクは免振工法用です。

- UPディスク：φ86mm・免振ディスク：φ91mm 各100枚/箱

副資材

UPアンカー/PLアンカー



UPアンカー PLアンカー

ディスク固定用のステンレス製アンカー。断熱材厚みに応じ、数種類の長さを用意しています。UPアンカーは樹脂プラグと合わせて使用します。

- UPアンカー：100本セット/箱
- PLアンカー：100本/箱(締付専用ビット付)

溶着剤



塩ビシートのジョイント部、ディスクやプレート部を張付ける時に使います。

- 1kg/缶

P-カットテープ

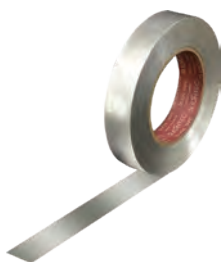


Uマット200、ALC目地の絶縁用に用いる粘着層付ポリエチレンテープです。

- 50mm×25m巻 30巻/箱

副資材

アルミテープ25

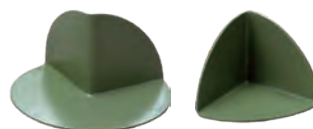


UPプレートのジョイント部に使用するアルミテープです。

- 25mm×100m 1巻/袋

成型役物コーナーパッチ

コーナーパッチ出隅用・入隅用/コーナーパッチZ出隅用・入隅用



出隅 入隅

ビュートップと同材質の樹脂を出隅および入隅の形状に成型した補強材です。熱風溶接機で施工します。

- 各25個/袋

シール材

Uシール



ビュートップシートのジョイント部の水密性をより確実にする不定形シール材です。

- 1kg/缶
- 色：ビュートップ各色

シール材

VTシール



変成シリコンポリマーを主成分とする1液弾性シーリング材です。パイプ廻りなどのシールに使用します。

- 333ccカートリッジ 20本/箱

接着剤

プラストボンド



フォームエースの張付けに用います。また、フォームエース上のシートの張付けにも使用します。

- 15kg/缶

VTエース



GIボード用の変成シリコンエポキシ樹脂系接着剤です。

- 2kg/チューブ 9本/箱
- F☆☆☆☆

断熱材

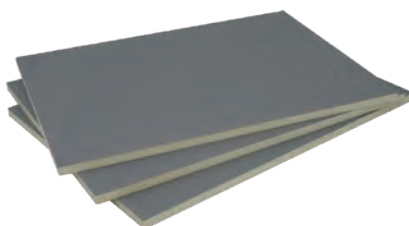
フォームエース



ビュートップ断熱接着工法に用いる完全独立気泡構造のポリエチレンフォーム系断熱材です。
(熱伝導率: 0.042W/m・K)

- 1m×2m (厚さ: 20・25・30mm)
1m×50m (厚さ: 10・15mm)
- JIS A 9521: ポリエチレンフォーム断熱材の密度および熱伝導率の規格に適合

GIボードW



ビュートップ断熱接着工法に用いる硬質ウレタンフォーム系断熱材です。
(熱伝導率: 0.023W/m・K)

- 900mm×1,200mm
- 梱包数は下表参照
- 厚さ: 25・30・35・40・50mm (40mmは受注生産品)
- ※ JISについては下段参照

VTボード



ビュートップ断熱機械的固定工法用の硬質ウレタンフォーム系断熱材です。表面にはディスク取付け目安となるライン入り。
(熱伝導率: 0.023W/m・K)

- 1,160mm×1,200mm
- 梱包数は下表参照
- 厚さ: 25・30・35・40・50mm (40mmは受注生産品)
- ※ JISについては下段参照

断熱材

スタイロエース-II



完全ノンフロンタイプ押出法ポリスチレンフォーム断熱材です。
(熱伝導率: 0.028W/m・K)

- 910mm×1,820mm
- 厚さ: 25・30・35・40・50mm
- JIS A 9521: 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA

PSマット



ポリスチレン断熱機械的固定工法に用いる専用の発泡ポリエチレン製絶縁マット。

- 1,160mm×100m
- 厚さ: 1.0mm

各種断熱材 厚さ別梱包数 (単位: 枚)

厚さ (mm)	25	30	35	40	50
GIボードW	10	8	7	6	5
VTボード	10	8	7	6	5

※GIボードW・VTボードのJISについて
JIS A 9521による硬質ウレタンフォーム断熱材3種1号の規格に適合する。
ならびに、JIS A 9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号または2号で透湿係数を除く規格に適合する。

塗膜防水

プライマー(ウレタン系)

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用。
四季を問わず通年で使用できる1液型のウレタン系プライマーです。

- 16kg/缶
- F☆☆☆☆

速硬化OTプライマー-Mブルー



塗布した部分が識別しやすいように青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用伸介プライマーです。

- 8kg/缶
- F☆☆☆☆

OTプライマー-QQ



冬季の施工などに適した速乾性の環境対応型プライマーです。

- 16kg/缶
- F☆☆☆☆

通気緩衝シート

オルタックシートGS



複合防水の下張り用通気緩衝シート。裏面はゴムアスのストライプ状粘着層。下地追従性に優れ、水分の拡散効果を発揮します。

- 1m×20m巻
- 厚さ: 1.0mm (ストライプ粘着層を含む)
- 絶縁用粘着層付複合防水下張りシート

ウレタン防水材

オルタックエース



特化則・有機則非該当で、鉛非含有の環境対応型ウレタン防水材です。

- 32kg/セット(主剤: 16kg・硬化剤: 16kg)
- 配合比1:1 硬化物比重1.2
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆

立上り用オルタックエース



チクソ性が高いためダレにくく、立上り部の施工性を向上させた、環境対応型ウレタン防水材です。

- 24kg/セット(主剤: 8kg・硬化剤: 16kg)
- 配合比1:2 硬化物比重1.3
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆

ウレタン防水材

オルタックサンキュアR



新触媒により可使時間をのばした速硬化ウレタン防水材です。

- 32kg/セット(主剤: 16kg・硬化剤: 16kg)
- 配合比1:1 硬化物比重: 1.2
- F☆☆☆☆

オルタックサンキュアT



可使時間をのばした立上り用の速硬化ウレタン防水材です。

- 24kg/セット(主剤: 8kg・硬化剤: 16kg)
- 配合比1:2 硬化物比重: 1.3
- F☆☆☆☆

オルタックサンキュア500/50



オルタックサブライシステム(自動混合・圧送システム)用の速硬化型ウレタン防水材です。

- 500: 450kg/セット(主剤: 172kg・硬化剤: 278kg)
- 50: 31kg/セット(主剤: 12kg・硬化剤: 19kg)
- 硬化物比重: 1.3
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆ ※受注生産品

ウレタン防水材

GO-JIN V/T



高靱性ウレタン防水材です(V:平面部、T:立上り用)。鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立しています。

- 20kg/セット (主剤: 8kg・硬化剤: 12kg)
配合比1:1.5 硬化物比重: 1.3
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆

GO-JIN500/50



オルタックサプライシステム(自動混合・圧送システム)用の高靱性ウレタン防水材です。

- 500: 450kg/セット (主剤: 172kg・硬化剤: 278kg)
50: 31kg/セット (主剤: 12kg・硬化剤: 19kg)
硬化物比重: 1.3
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆ ※受注生産品

オルタックスプレーFF



速硬化型の高強度形ウレタンスプレー防水材です。

- 390kg/セット
(主剤: 200kg・硬化剤: 182kg・トナー: 8kg)
- JIS A 6021 高強度形スプレー用ウレタン塗膜防水材
- F☆☆☆☆

ウレタン防水材

オルタックエースUC



主剤と硬化剤の混合比率が1:2タイプのウレタン塗膜防水材です。引張り強さ・破断時の伸び率に優れています。

- 24kg/セット (主剤: 8kg・硬化剤: 16kg)
配合比1:2 硬化物比重: 1.3
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
- F☆☆☆☆

仕上塗料

OTコートA/速硬化OTコートA



半つやタイプの環境対応型アクリルウレタン系保護塗料です。他にOAコートAつやあり(4色)もあります。

- 14kg/セット (主剤6kg・硬化剤8kg)
- 各標準4色 受注生産4色
- F☆☆☆☆

OTコートシリコンクール



優れた耐久性に加え、日射反射率50%を超える、つやありタイプの高耐久・高反射性保護塗料です。

- 14kg/セット (主剤: 6kg・硬化剤: 8kg)
- 標準2色 受注生産1色
- F☆☆☆☆

仕上塗料

OTコートクール



日射反射率50%を超える、半つやタイプの高反射性保護塗料です。

- 14kg/セット (主剤: 6kg・硬化剤: 8kg)
- 標準2色 受注生産1色
- F☆☆☆☆

OTコートシリコン/速硬化OTコートシリコン



耐久性に優れたつやありタイプの保護塗料です。

- 14kg/セット (主剤: 6kg・硬化剤: 8kg)
- 全3色
- F☆☆☆☆

OTコートQQ



速硬化型の2液反応型アクリルウレタン系保護塗料です。

- 15kg/セット (主剤: 6kg・硬化剤: 9kg)
- 標準2色 受注生産6色
- F☆☆☆☆

補強布

メッシュUB/メッシュUBのり付き



断裁してもほつれない、からみ織のガラスメッシュです。寸法安定性に優れ、抜群の補強効果があります。作業時にメッシュを仮固定できる「のり付きタイプ」もあります。

- 1,040mm×100m巻 40g/㎡

メッシュUBソフト



ポリエステル繊維を用いた、柔軟性に優れている補強用メッシュです。

- 1,020mm×50m巻 50g/㎡

プライマー(ゴムアスファルト系)

水性プライマーC



アスファルトと合成樹脂を配合した水性タイプのプライマーです。熱工法、トーチ工法にも使用可能です。
※ 5倍希釈

- 18kg/缶

ゴムアスファルト防水材

ビルコートS



固形分が84%の高濃度ゴムアスファルト水性防水材です。

- 17kg/缶
- JIS A 6021 建築用塗膜防水材、ゴムアスファルト系

水系用硬化剤



ビルコートSの硬化剤です。標準・速硬化・夏用の3タイプがあります。

- 各0.3kg/缶×4缶/箱

ビル増粘剤



ビルコートSの粘度調整剤です。

- 5kg/缶

補強布

BCマットPC



合成繊維不織布製の防水層補強材です。

- 1m×100m巻

保護緩衝材・保護シート※

※絶縁クロスと絶縁シートについては36ページをご参照ください。

GSプロテクター



架橋発泡ポリエチレンをベースに、ポリエチレンクロスを表素材とした防水シート保護緩衝材。

- 1m×25m巻 厚さ:6.0mm

GSプロテクターセメント



GSプロテクター張付け用の変性アクリル樹脂水性接着剤。

- 17kg/缶

ポリマーセメント系防水材料

TLコートA/B



自己架橋型アクリル水性タイプのポリマーセメント系防水材料で、TLコートCと混合して使用します。TLコートAは濃いグレー色、Bは明るいグレー色の仕上りとなります。

- 18kg/缶

TLコートC



TLコートAやTLコートBと混合攪拌して使用する無機質水硬性粉体です。

- 18kg/袋

保護塗料

SPミネラコート



歩行仕上げ用の珪砂入り水性保護塗料です。

- 18kg/缶
- 塗布量：1.0kg/m²以上(2回塗り以上)

補強布

TLクロス1000/200



メッシュ状のポリエステル製補強布です。

- TLクロス1000：1m×50m巻
- TLクロス200(受注生産品)：200mm×50m巻 5巻/包

アクリルゴム系外壁防水材料

RVシーラーエポ



エポキシ変性アクリル樹脂系プライマーです。

- 14kg/缶
- F☆☆☆☆ ※受注生産品

RVボーススタイルS



アクリルゴム系高弾性タイプの外壁用吹付塗膜防水材料です。

- 18kg/缶
- JIS A 6021外壁アクリルゴム系1成分形
- F☆☆☆☆ ※受注生産品

RVコートセラ



耐久性に優れた水性弾性2液反応硬化型無機系塗料です。

- 15kg/セット(主剤：14kg・硬化剤：1kg)
- F☆☆☆☆ ※受注生産品

各種副資材

ステンレス製脱気筒

ステンレスベーパーパス



露出防水における防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気部材です。

- 台座：300mm×300mm 高さ205mm
- キャップ：φ80mm×150mm
- 1個/箱
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

ステンレスベーパーパスW



断熱工法に用いる二重式のステンレス製平面部用通気部材です。

- 上部 ステンレスベーパーパス 台座：300mm×300mm 高さ205mm
- アンダーベーパーパス 台座：200mm×200mm 高さ205mm
- 1個/箱
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

ステンレスベーパーパスG



非断熱工法に用いる逆流防止弁付のステンレス製通気部材です。

- 台座：300mm×300mm 高さ205mm
- 1個/箱
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

ステンレス製脱気筒

ステンレスベーパーパスGW



断熱工法に用いる逆流防止弁付のステンレス製二重通気部材です。

- 上部 ステンレスベーパーパス 台座：300mm×300mm 高さ205mm
- アンダーベーパーパス 台座：200mm×200mm 高さ205mm
- 1個/箱
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

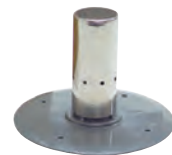
立上り用ステンレスベーパーパス



立上り部より通気するタイプのステンレスベーパーパスです。

- 幅120mm×高さ130mm 厚み21.4mm(最大)
- 4セット/箱
- ウレタン防水用

VTベーパーパス



塩ビ系シート用に開発された、平面部専用の通気部材です。

- 台座：φ220mm×高さ150mm
- 本体：硬質塩化ビニル樹脂 キャップ：ステンレス製
- 2個/箱
- 塩ビ系シート用

ステンレス製脱気筒

ステンレスベーパーパスVP

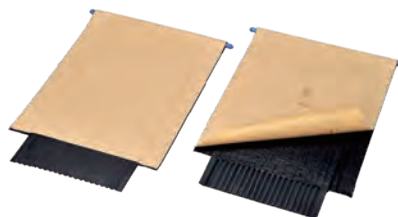


加硫ゴム系シート用に開発された、平面部専用の通気部材です。

- 台座：φ240mm×高さ200mm
- 本体：硬質塩化ビニル樹脂 キャップ：ステンレス製
- 2個/箱
- 加硫ゴム系シート用

合成ゴム系脱気材

ベーパーパス

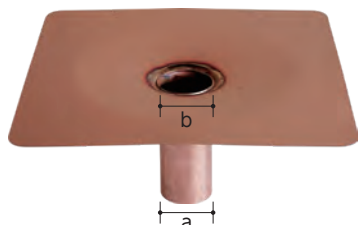


合成ゴム成型品とゴムアスシートを組合せた通気材です。立上り部防水層の下に入り、歩行時の障害になりません。

- 幅240mm 高さ：350・500・700・1000mm
- 各5枚/箱
- アスファルト防水用

排水用ドレン たて用

リードレンCたて



改修工事用たて型銅製ドレン。既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなります。専用アンカー付属。

- つば：365mm×365mm 筒長さ：150mm
- 13サイズあり(標準品は5サイズ)
- 1個/箱 (規格については下表参照)
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

ドレンキャップ190



アルミダイキャスト製の縦引き用ドレンキャップです。

- φ190mm×170mm 1個/箱
- アルミダイキャスト 色：黒

ドレンキャップAS

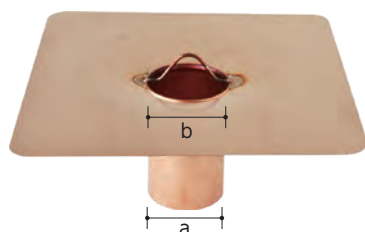


アルミダイキャスト製の縦引き用ドレンキャップです。

- φ114mm×高さ：35mm 5個/箱
- アルミダイキャスト 色：黒・ライトグレー

排水用ドレン たて用

リードレンZたて



「リードレンCたて」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、連結式銅製ドレン。

- つば：365mm×365mm 筒長さ：150mm
- 標準品5サイズ(規格については下表参照) 1個/箱
- ※ 「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZたて



リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定します。

- φ190mm×170mm 1個/箱
- アルミダイキャスト 色：黒
- ※ 「リードレンZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンCたて：13サイズ(標準品：表内の下線表示、受注生産品：表内の※印)

リードレンZたて：5サイズ(表内の下線表示)

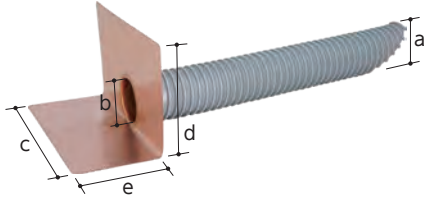
呼称	35※	45※	50※	60	65	75	80	95	120※	130※	140※	150※	160※
外径(a)/mm	35	45	50	58	64	74	80	95	119	129	139	149	159
内径(b)/mm	33	43	48	56	62	72	78	92	117	127	137	147	157
許容最大屋根面積(m ²)*	22	44	60	90	118	176	218	339	645	804	984	1190	1410

* SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

- リードレンCたての受注生産品(※)は、納期約2週間。
- リードレンZたての標準品以外のサイズは特注品として承ります。(納期約3週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケージDX」のご利用が便利です。

排水用ドレン 横引用

リードレンC横



改修工事用横型銅製ドレン。既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなります。専用アンカー付属。

- つば：下表参照 ホース有効長さ：500mm
- 7サイズあり(標準品は3サイズ)
- 1個/箱 (規格については下表参照)
- アスファルト防水用・ウレタン防水用

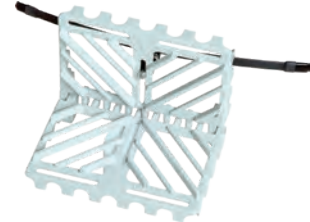
ドレンキャップ 横引用C200



角度調整ができるアルミダイキャスト製の横引用ドレンキャップです。

- 長さ：150mm+150mm×幅：200mm
- アルミダイキャスト 色：黒
- 1個/箱

ドレンキャップ 横引用AS

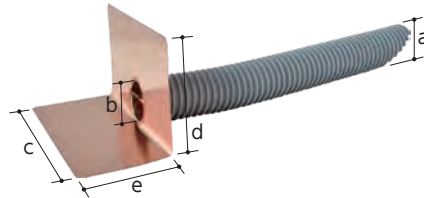


アルミダイキャスト製の横引用ドレンキャップです。

- 長さ：110mm+110mm×幅：140mm
- アルミダイキャスト 色：ライトグレー
- 1個/箱

排水用ドレン 横引用

リードレンZ横



「リードレンC横」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、強風対策型銅製ドレンです。

- つば：下表参照 ホース有効長さ：500mm
- 標準品3サイズ(規格については下表参照) 1個/箱
- ※ 「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZ横



リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。中央のJフックで連結固定します。納まりに合わせてキャップの角度調整が可能です。アルミダイキャスト製。

- 長さ：150mm+150mm×幅：200mm
- アルミダイキャスト 色：黒
- 1個/箱
- ※ 「リードレンZ横」以外との組合せ使用不可。

ドレンキャップ横引用DX



水勾配や立上り部の角度に合わせてキャップ位置の調整が可能です。落ち葉などの流入をばみ、スムーズな雨水排水を維持します。

- 幅：300mm×高さ：196mm×奥行：187mm
- ステンレス(上部)、鋳鉄(ベース部) 色：黒
- 1個/箱

リードレンC横：7サイズ(標準品：表内の下線表示、受注生産品：表内の※印)

リードレンZ横：3サイズ(表内の下線表示)

呼称	40※	50※	60	75	90	115※	140※
ホース 外径(a)/mm	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)/mm	30	36	49	60	73	99	124
つば 幅寸法(c)/mm	250	250	250	300	300	300	300
つば 高さ寸法(d)/mm	132	138	150	160	175	200	225
つば 奥行寸法(e)/mm	140						
配管勾配ごとの 許容最大屋根面積(m ²)*	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

* SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

【注意】

「リードレンC横/Z横」のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性があります。

- リードレンC横の受注生産品(※)は、納期約2週間。その他に、35・100タイプを特注品として作成できます。(納期約3週間)
- リードレンZ横は標準品以外に、35・40・50・100・115・140タイプを特注品として作成できます。(納期約3週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケージDX」のご利用が便利です。

防火認定に関するご案内

防火地域・準防火地域・法22条指定区域などの屋根に防火性能が要求される建築物において、断熱材の厚みが50mmを超えるなど、防火認定が必要な場合にはその内容に則した仕様構成にする必要がございます。詳しくは営業担当までお気軽にお問い合わせください。

【参考資料】

「平12建告第1365号(抜粋)」防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の構造方法を定める件
法第62条の規定に基づき、防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根の構造方法を次のように定める。
第1 施行令第136条の2の2各号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、次に定めるものとする。

- 一 不燃材料で造るか、又はふくこと。
- 二 屋根を準耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったものに限る。)とすること。
- 三 屋根を耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったもので、かつ、その勾配が水平面から30度以内のものに限る。)の屋外面に断熱材(ポリエチレンフォーム、ポリスチレンフォーム、硬質ポリウレタンフォームその他これらに類する材料を用いたもので、その厚さの合計が50mm以下のものに限る。)及び防水材(アスファルト防水工法、改質アスファルトシート防水工法、塩化ビニル樹脂系シート防水工法、ゴム系シート防水工法又は塗膜防水工法を用いたものに限る。)を張ったものとする。

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

田島ルーフィング株式会社

<https://tajima.jp>

東京支店	〒101-8579	千代田区外神田4-14-1	TEL 03-6837-8888
大阪支店	〒550-0003	大阪市西区京町堀1-10-5	TEL 06-6443-0431
札幌営業所	〒060-0042	札幌市中央区大通西6-2-6	TEL 011-221-4014
仙台営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央1-6-35	TEL 022-261-3628
北関東営業所	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-49-8	TEL 048-641-5590
千葉営業所	〒260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1	TEL 043-244-3711
横浜営業所	〒231-0012	横浜市中区相生町6-113	TEL 045-651-5245
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町1-12-20	TEL 042-503-9111
金沢営業所	〒920-0025	金沢市駅西本町1-14-29	TEL 076-233-1030
名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄1-9-16	TEL 052-220-0933
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通6-1-17	TEL 078-330-6866
広島営業所	〒730-0029	広島市中区三川町2-10	TEL 082-545-7866
福岡営業所	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-35	TEL 092-724-8111